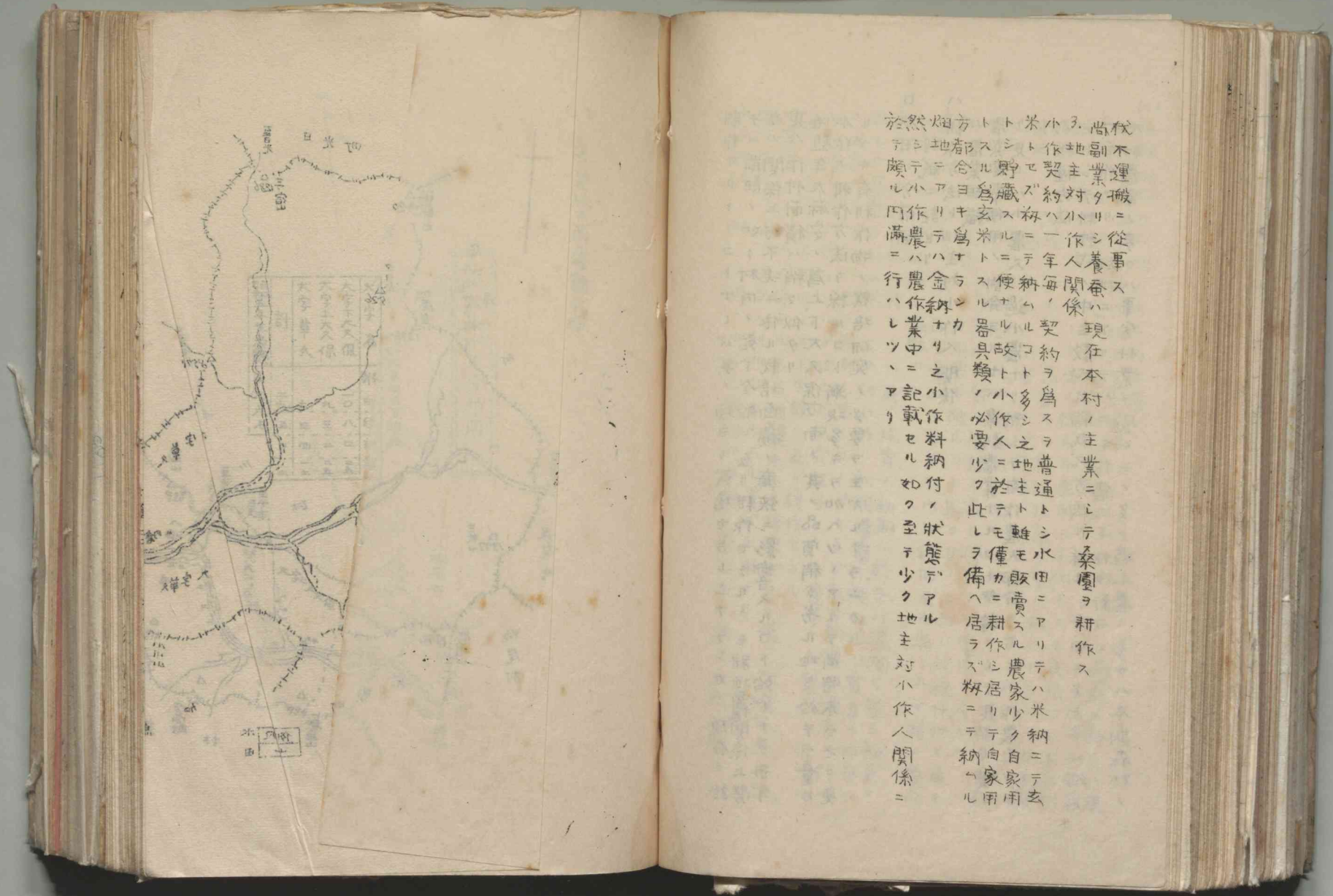
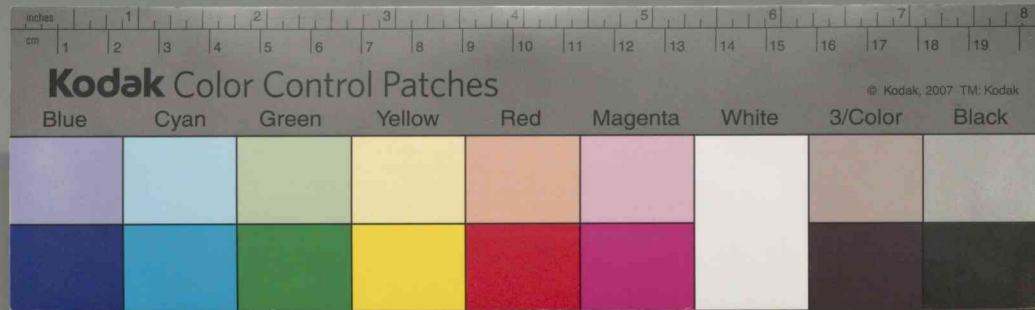
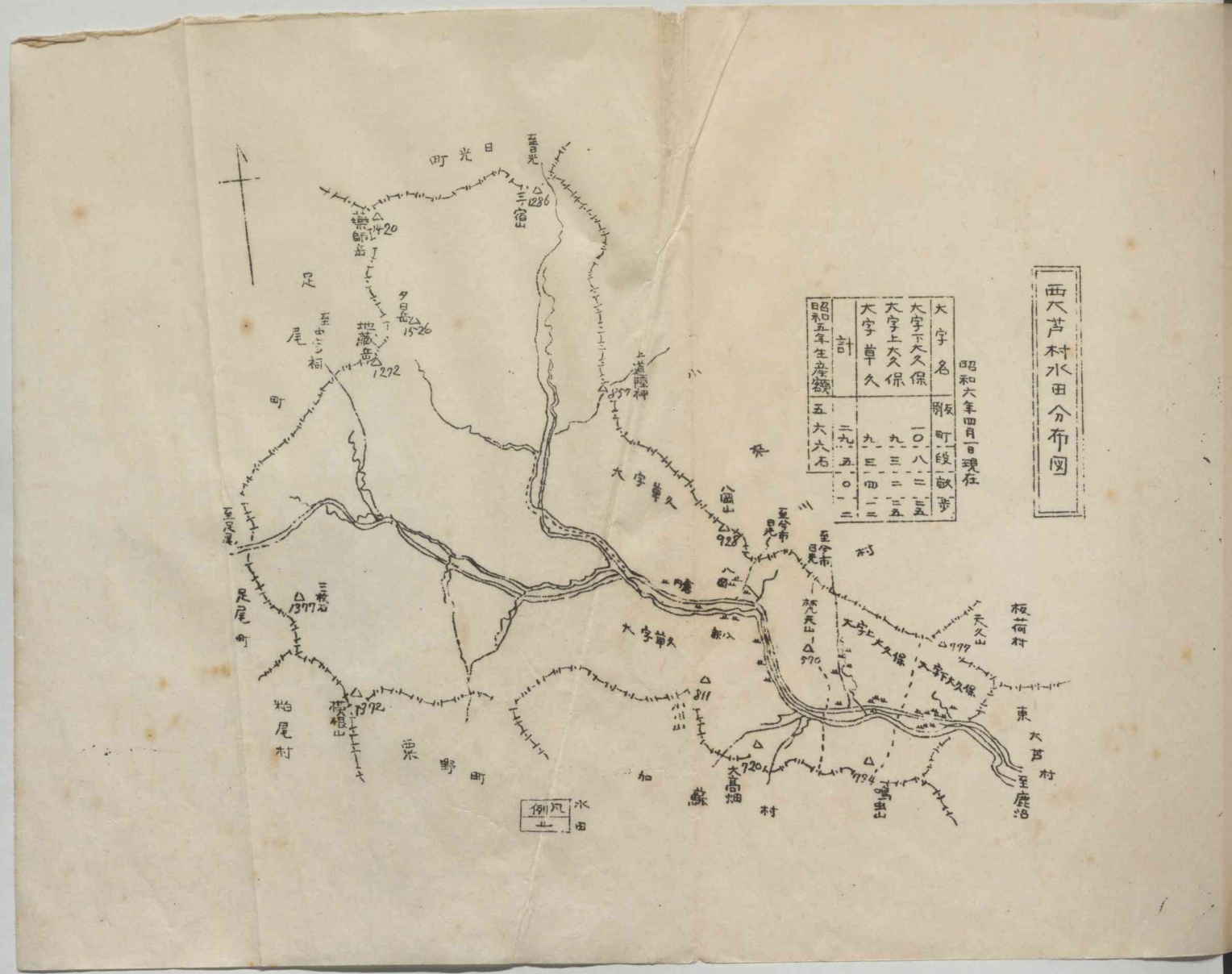
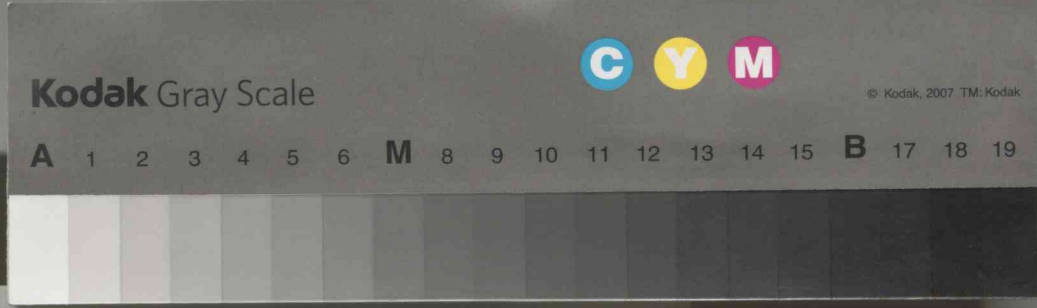
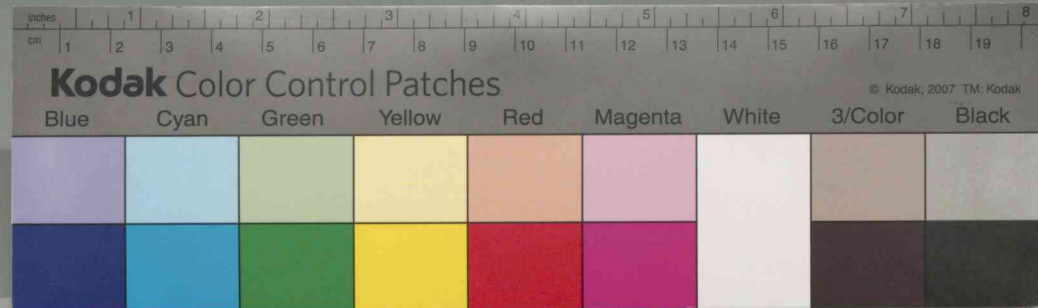


Handwritten Japanese text on two pages of an old book. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The right page contains a numbered list (1) and several paragraphs of text. The left page contains a list of items and a paragraph of text. The handwriting is in a traditional style, likely from the early 20th century.

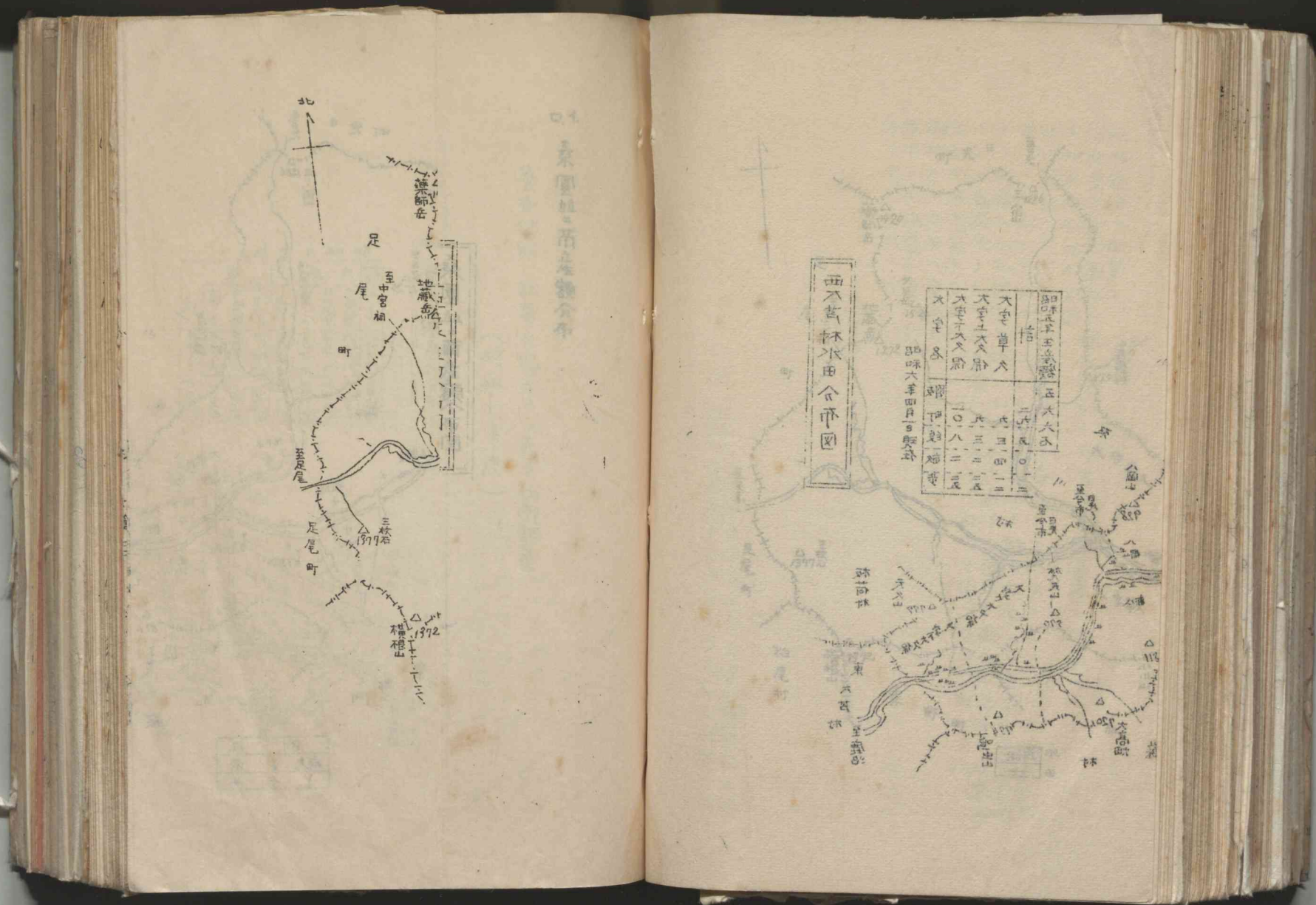
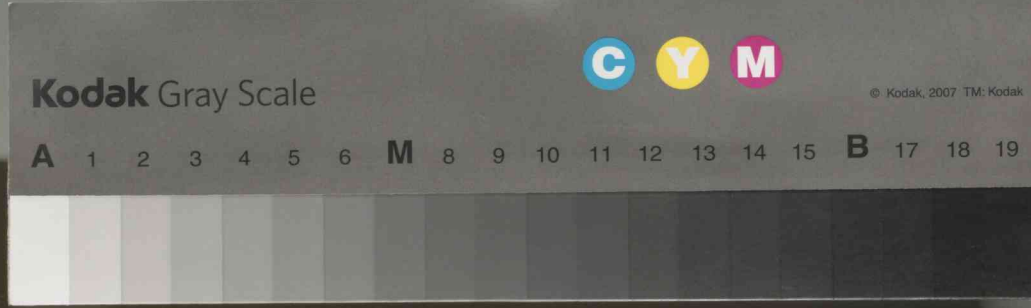
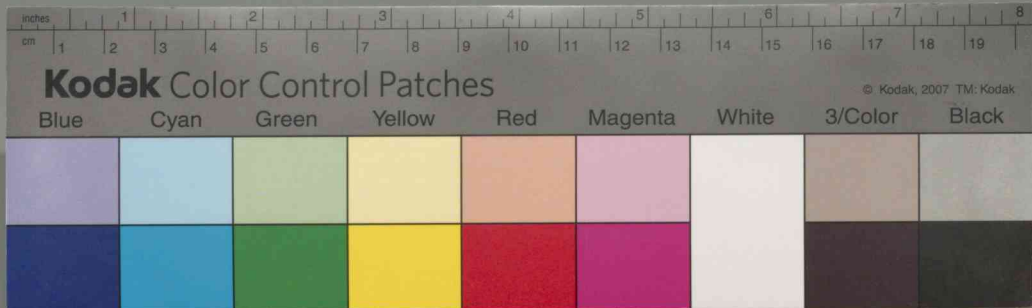


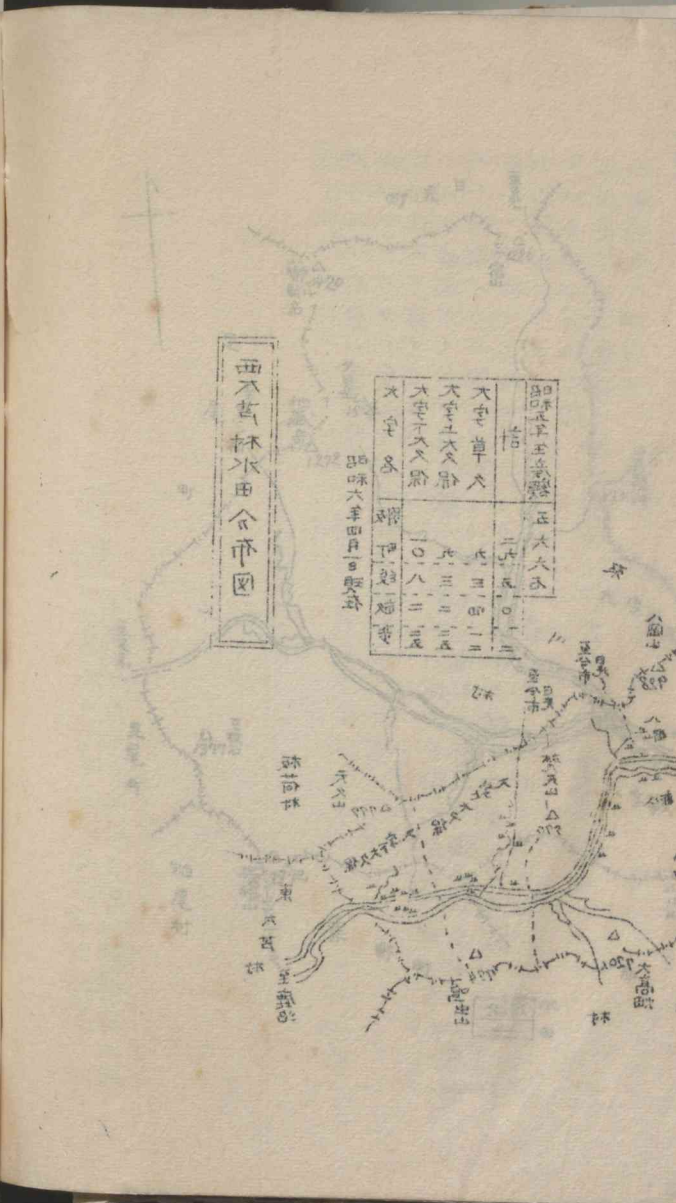
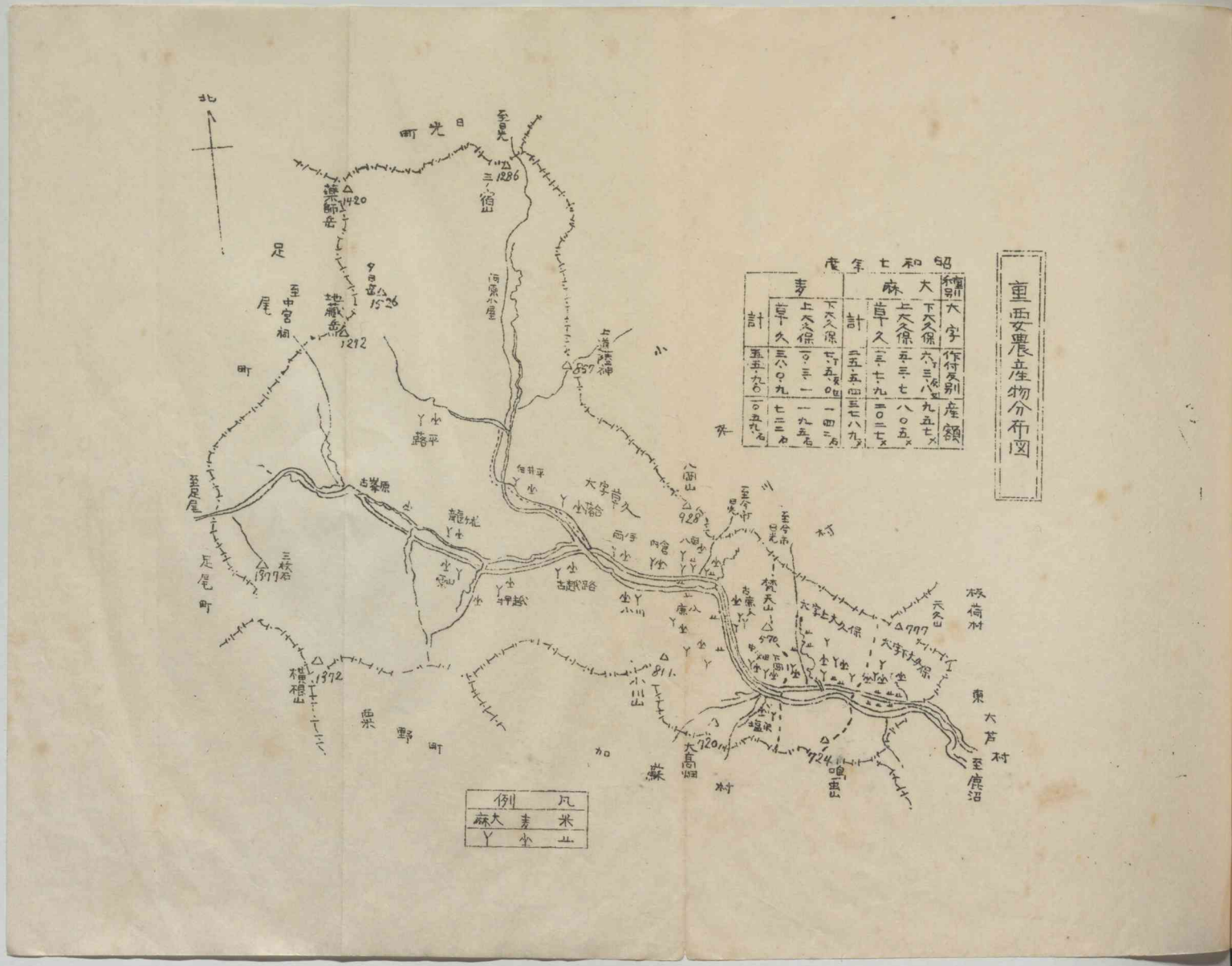
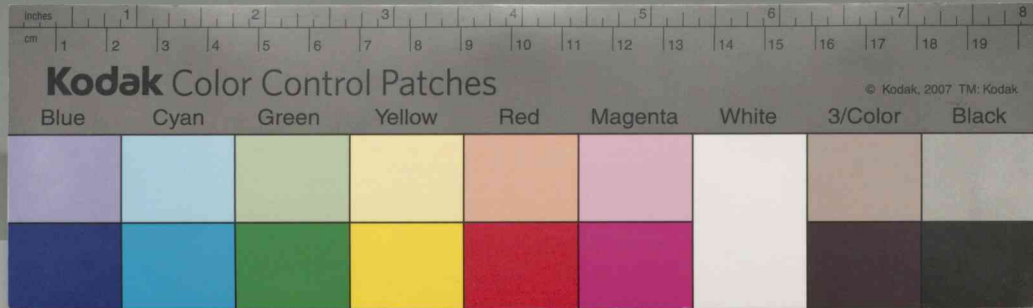


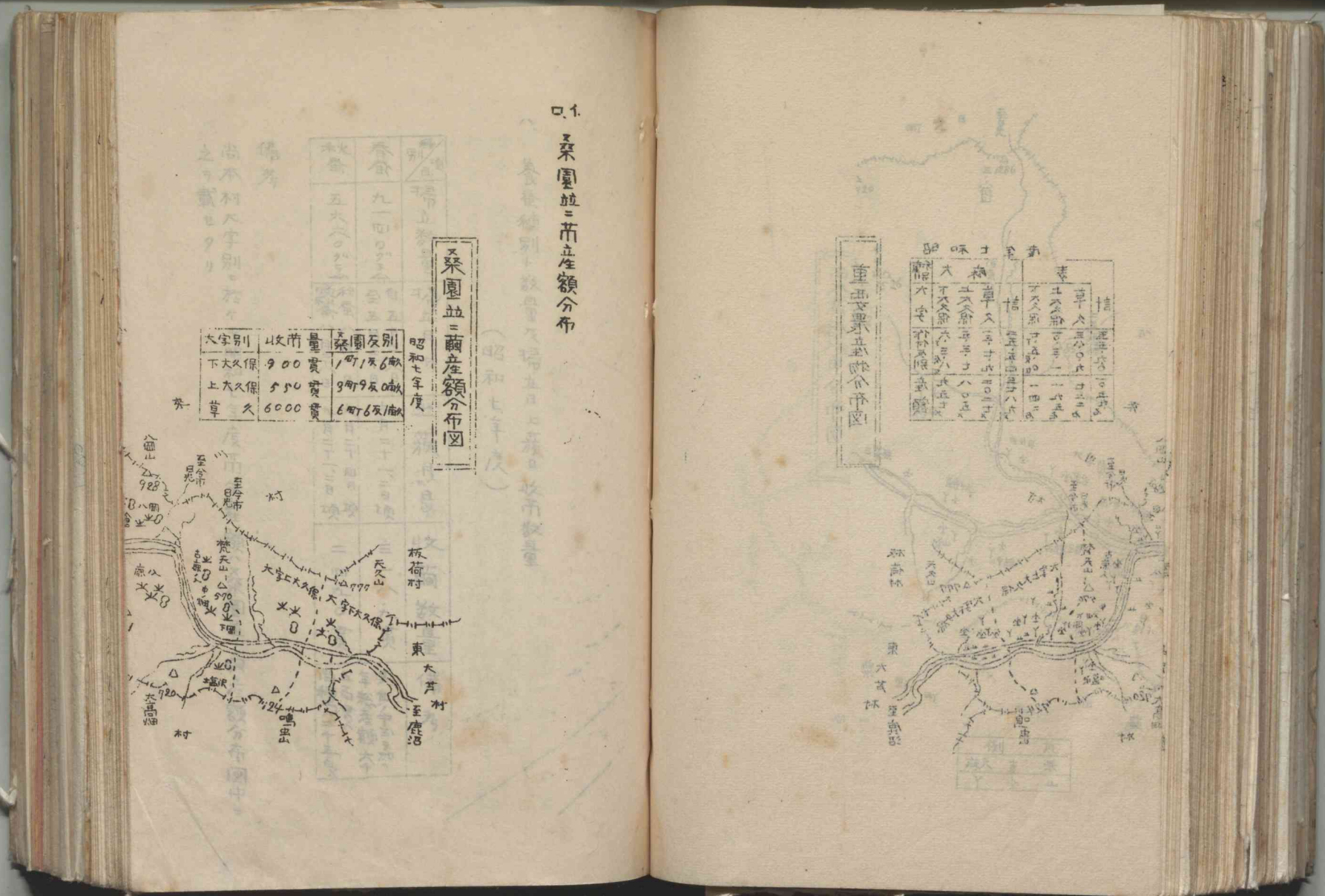


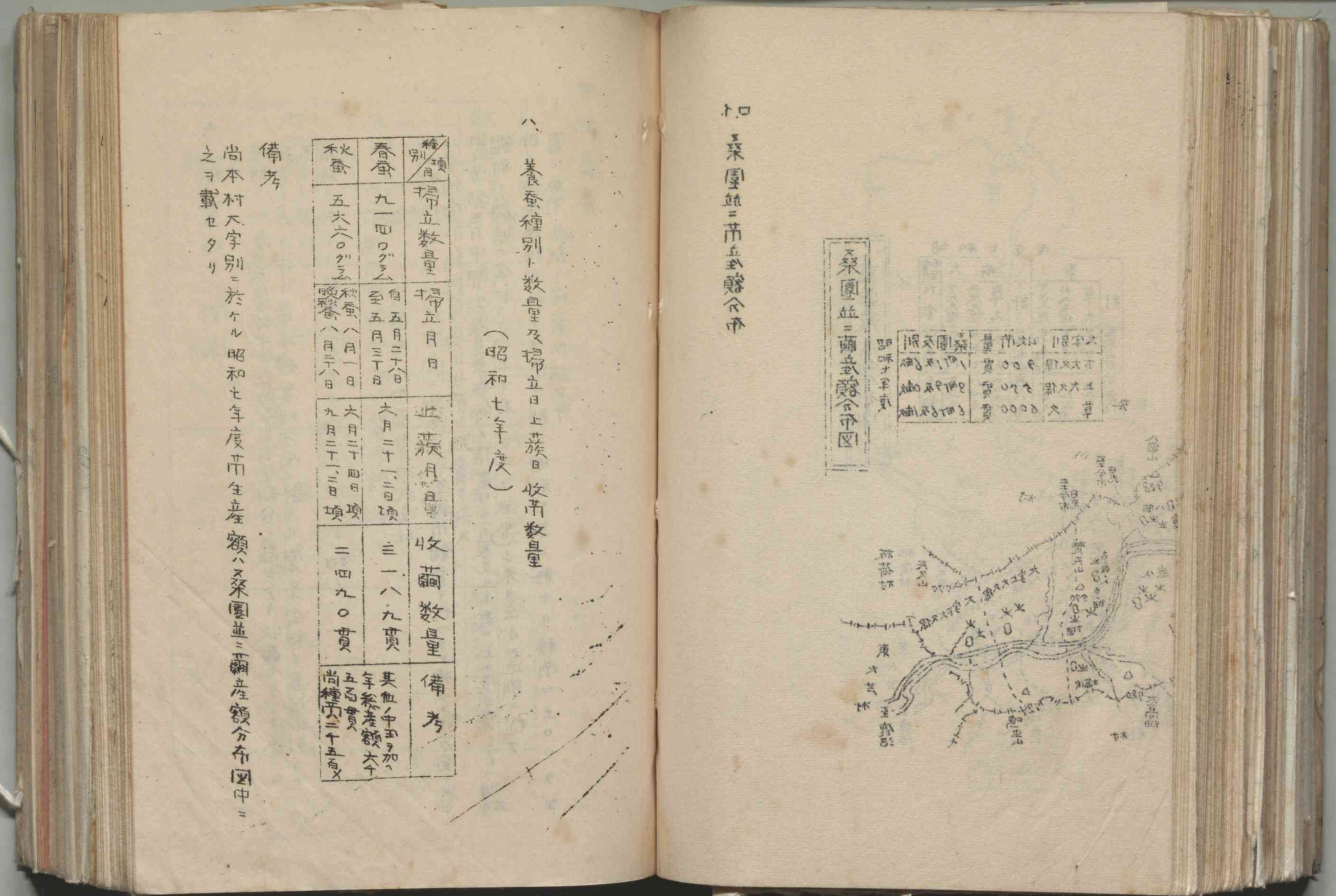
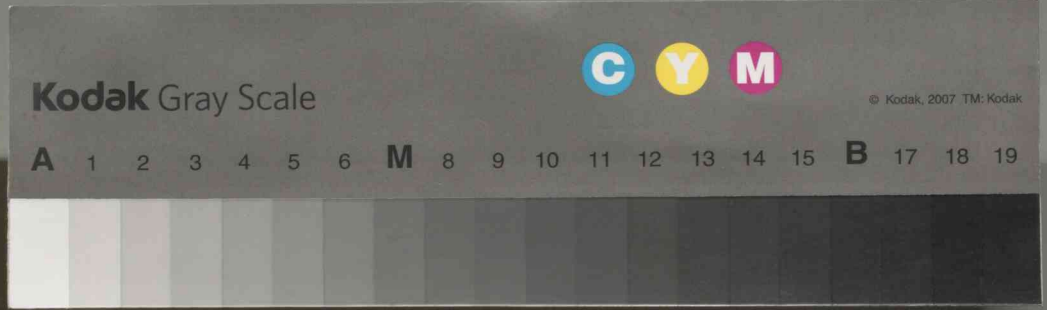
尚副業タリシ養蚕ハ現在本村ノ主要ニシテ桑園ヲ耕作ス  
 又地主對小作人關係  
 小作契約ハ一年毎ノ契約ヲ爲スラ普通トシ水田ニアリテハ米納ニテ玄  
 米トモ貯藏スルニ便ナル故ト小作人ニ於テモ僅カニ耕作シ居リテ自家用  
 トシ貯藏スルニ便ナル器具類ノ必要少ク此レヲ備ヘ居ラズ米ニテ納ムル  
 方都合ヨキ爲ナランカ  
 然シテ小作農ハ農業中ニ記載セル如ク至テ少ク地主對小作人關係ニ  
 於テ頗ル内滿ニ行ハレツ、アリ











備考  
 尚本村大字別ニ於ケル昭和七年度市立産額ハ又桑園並ニ繭産額分布圖中ニ  
 之ヲ載セタリ

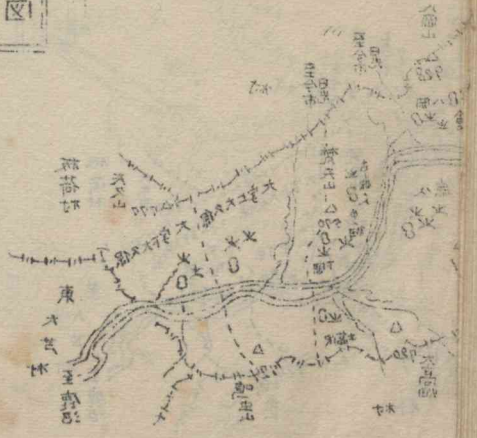
種別	種立数量	種立月日	此種月日	收繭数量	備考
春蚕	九一四〇コ	自五月二八日 至五月三十一日	六月三十一日	三一八九貫	其他中五ノ加 年産産額六千 五百貫
秋蚕	五六六〇コ	自八月一日 至八月三十一日	九月三十一日	二四九〇貫	
合計					尚種立二十五コ

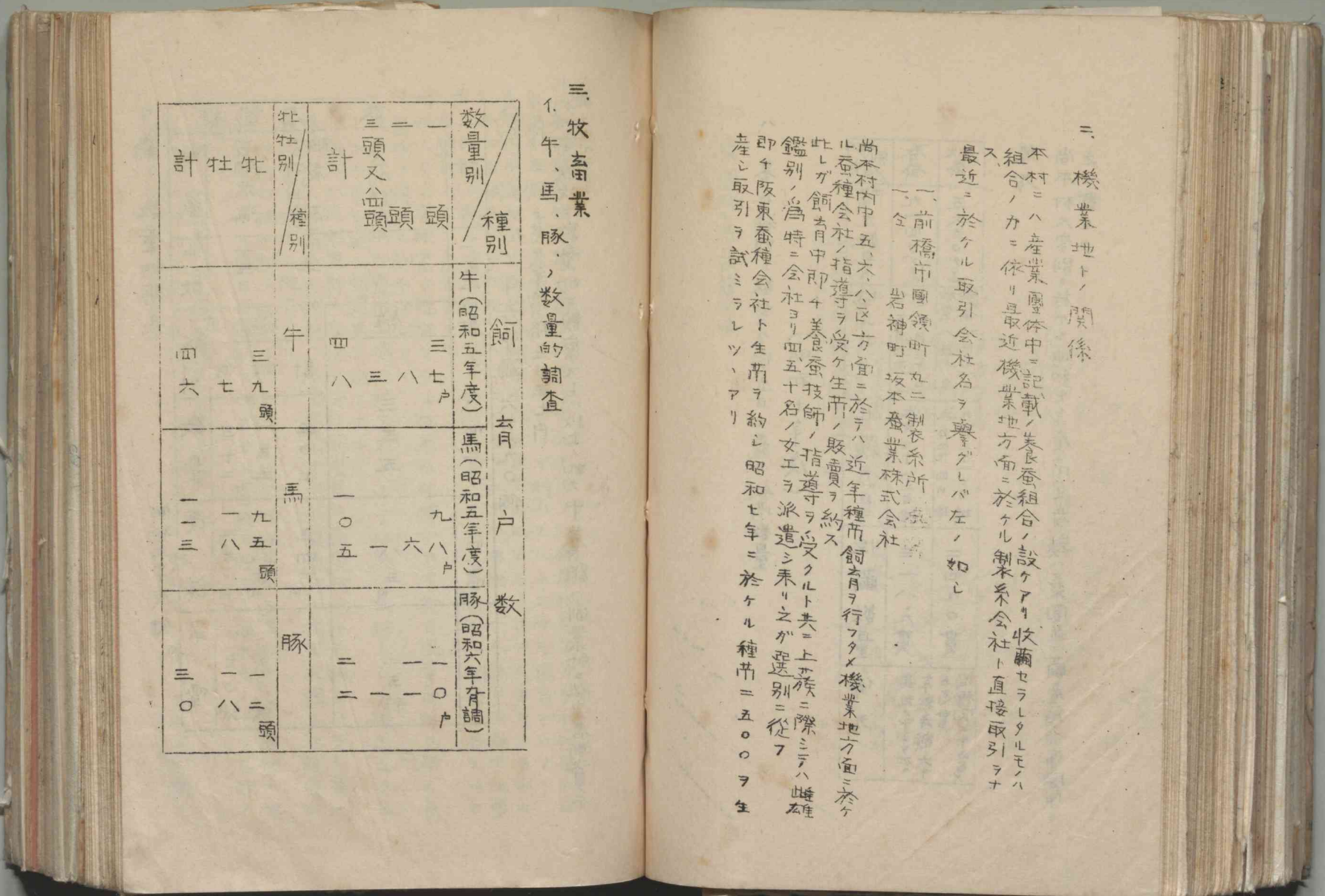
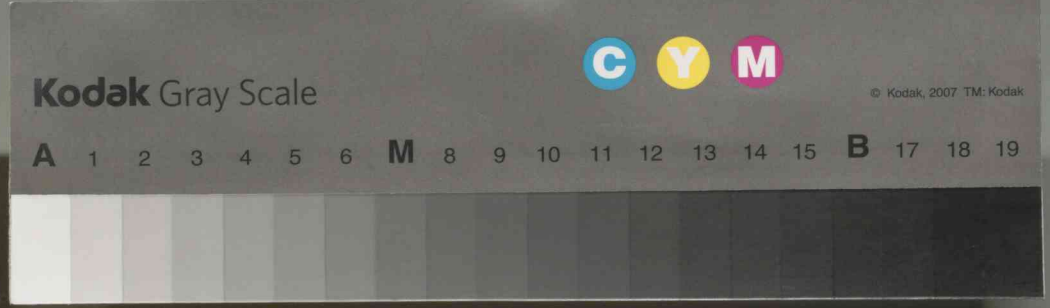
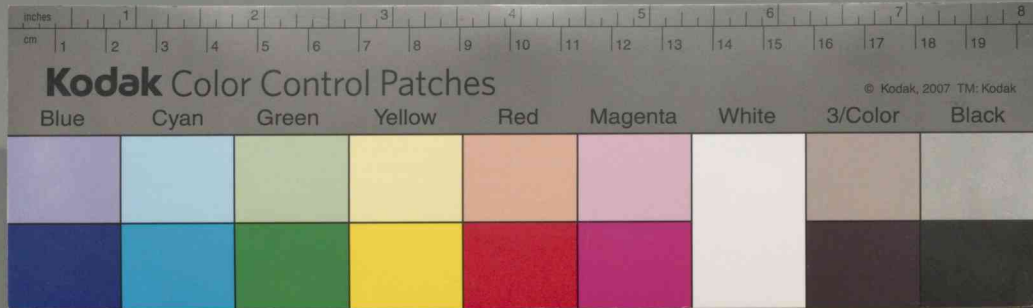
八、養蚕種別ト数量及種立月上上族日 收繭数量  
 (昭和七年度)

桑園並ニ市立産額分布

桑園並ニ繭産額分布圖

種別	種立数量	種立月日	此種月日	收繭数量
春蚕	九一四〇コ	五月二八日	六月三十一日	三一八九貫
秋蚕	五六六〇コ	八月一日	九月三十一日	二四九〇貫





計 社 別	社 別	数量別			種 別
		頭	頭	頭	
計	牛	三	八	三	牛(昭和五年度)
		七	九	六	
計	馬	一	一	一	馬(昭和五年度)
		五	八	三	
計	豚	二	一	一	豚(昭和六年育調)
		二	一	一	

三、牧畜業  
1. 牛、馬、豚、の数量的調査

二、機業地との関係

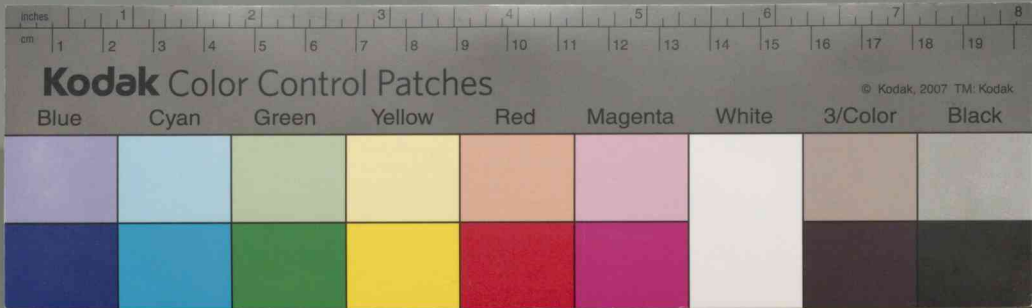
本村ニハ産業團體中ニ記載ノ養蚕組合ノ設ケアリ收爾セラレタルモノハ組合ノ力ニ依リ最近機業地方面ニ於ケル製糸会社ト直接取引ヲナス最近ニ於ケル取引会社名ヲ擧ゲルバ左ノ如シ

一、前橋市團領町丸ニ製糸所 在  
一、全 岩神町坂本養業株式会社

尚本村内中五六八區方面ニ於テハ近年種市飼育ヲ行フタメ機業地方面ニ於ケル養蚕会社ノ指導ヲ受ケ生市ノ販賣ヲ約ス此レガ飼育中即チ養蚕技術ノ指導ヲ受ケタルト共ニ上ニ於テハ雌雄鑑別ノ為時ニ会社ヨリ四五十名ノ女工ヲ派遣シ来リ之ガ選別ニ從フ即チ阪東養蚕会社ト生市ヲ約シ昭和七年ニ於ケル種市ニ五〇〇ヲ生産ニ取引ヲ試ミラレツ、アリ







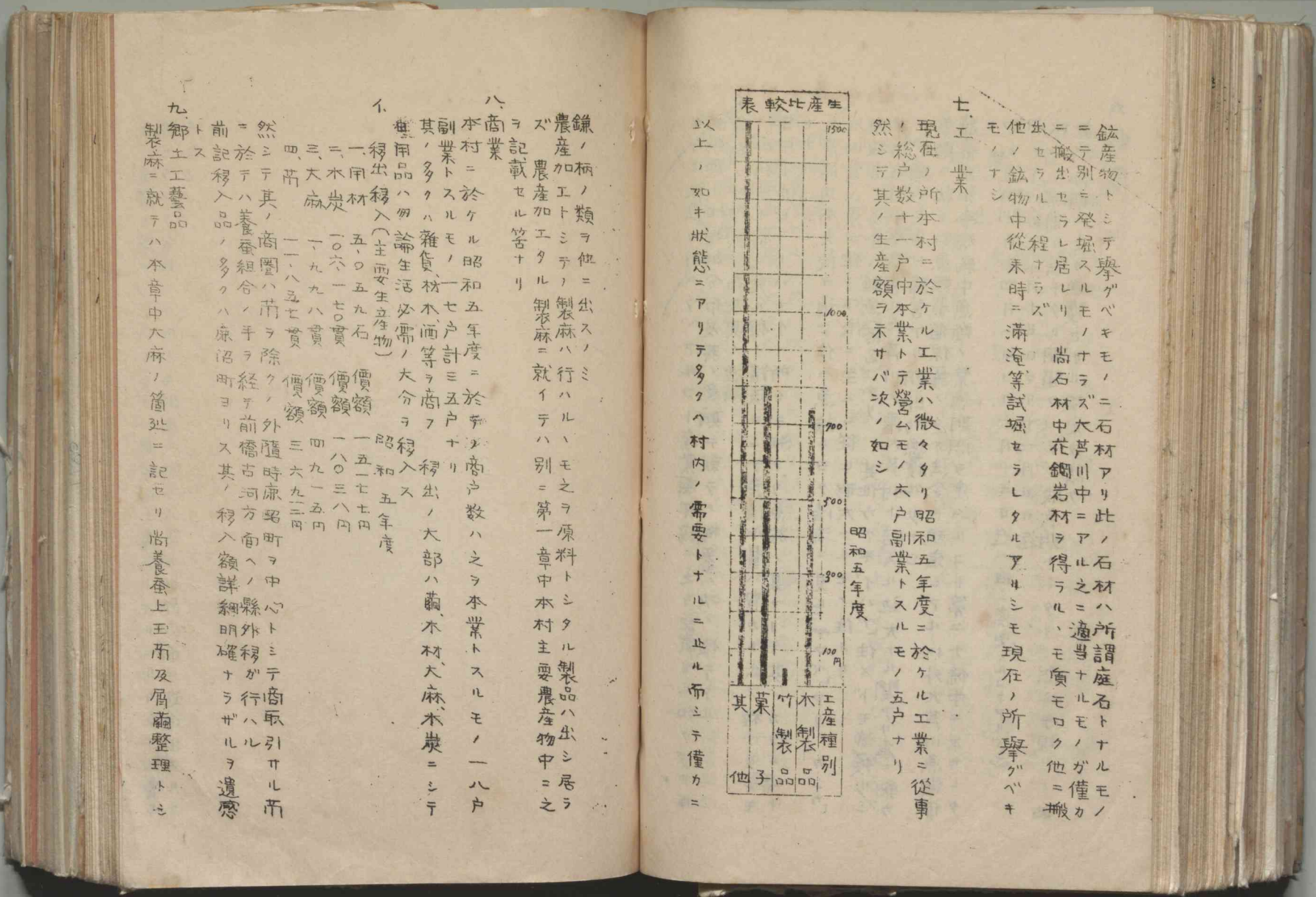
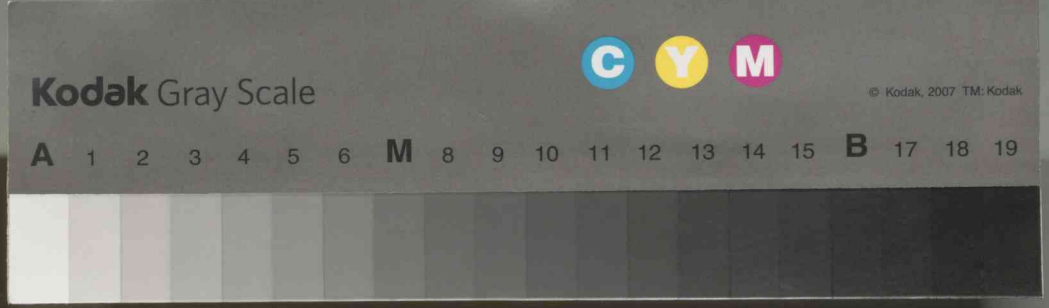
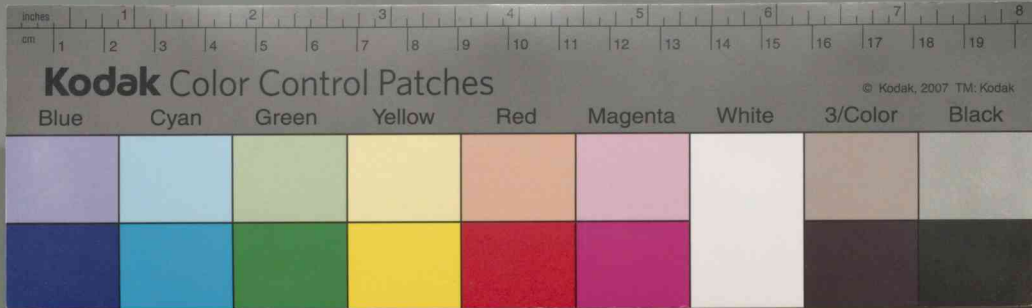
林業  
 本村生産物中其ノ最モ主位ヲ占ムルモノハ林産物ニアリテ本村民ノ生  
 活ハ主トシテ養蚕ト並ビ之ニヨリテ行ハレト去フモ過言デハナイ  
 村ノ内ニ於ケル山林積九千八百六十町ニ反人口一人当リ七畝十九步  
 町ノ七畝ニシテ本村ノ人口一人当リニ十八步烟ノ一人当リ七畝十九步  
 然シテ之等林業中植林セラルル杉檜デアリ其ノ成育良好ニ而モ長  
 伐材ヲ得ラル即チ製板工場ニ於テ主トシテ板或ハ角材トシテ搬出セラル  
 水ハ村内ノ水カ製板工場ニ於テ主トシテ製炭サレホ目大俵又ハ近時改  
 雑木ハ天然更新ノ方法ヲ採リ薪炭或ハ薪炭材トシテ搬出セラル其ノ  
 量又多シ薪炭ニ於テハ冬季農閑ヲ以テ製炭サレホ目大俵又ハ近時改  
 良ハ實多シ薪炭ニ於テハ冬季農閑ヲ以テ製炭サレホ目大俵又ハ近時改  
 部護岸ノタメ或ハ山麓辺ニ植エラレ管理ヲ施サシ居ルモノナク自然ノ  
 木材ノ伐採量並ニ薪炭材及不炭ノ産量  
 於ケル伏採量左記ノ如シ  
 昭和四年今五年ニ箇年間ニ

本村養鶏ノ状況ヲ数量的ニ觀察スレバ以上ノ如ク中養鶏ハ副業的ニ營ム者漸次多ク  
 三至リツ、アリ  
 昭和六年度  
 昭和六年度  
 昭和六年度

計	戸養鶏		飼鶏		雌雄別 数量	價額	單價
	五〇羽以上	一〇羽未満	計	雌雄			
一五一合計	〇	二一	計	雄 雌	數量	價額	單價
八四二	三三五	五〇七	三〇〇	一三五	三二二	二六〇円	七〇銭
四二四	八三	三四一	八一	一四	六〇	六〇銭	七〇銭
	二五						







九、郷土工藝品  
製麻=就テハ本章中大麻ノ箇処ニ記セリ尚養蚕上玉所及屑繭整理トシ

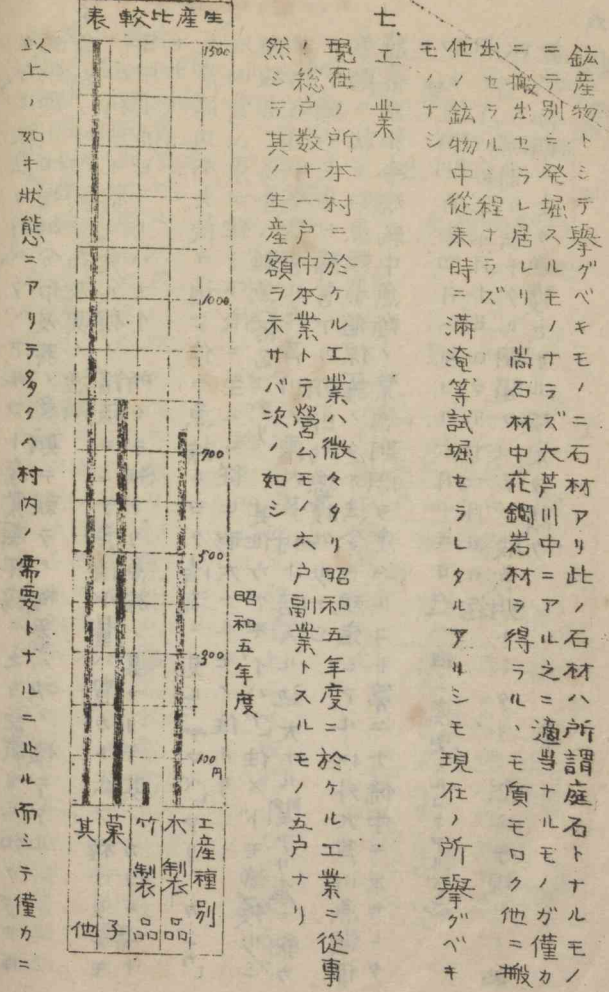
然シテ其ノ商團ハ前ヲ除ク、外隨時麻製町ヲ中心トシテ商取引ナル市  
前記移入品ノ多クハ麻沼町ヨリス其ノ移入額詳細明瞭ナラザルヲ遺憾  
トス

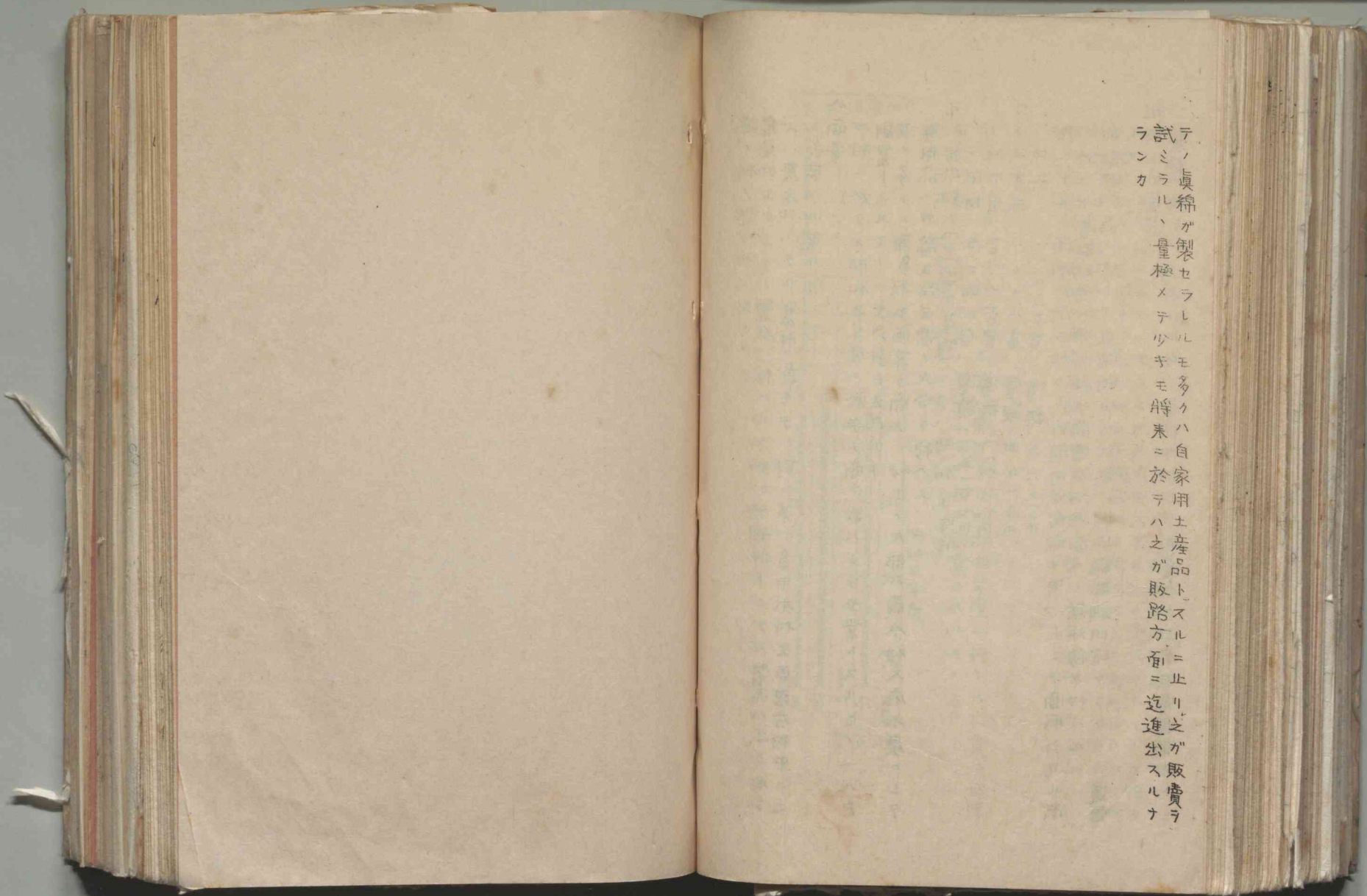
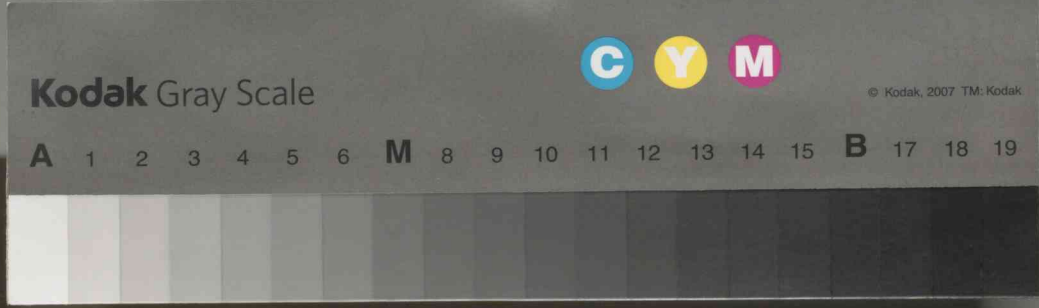
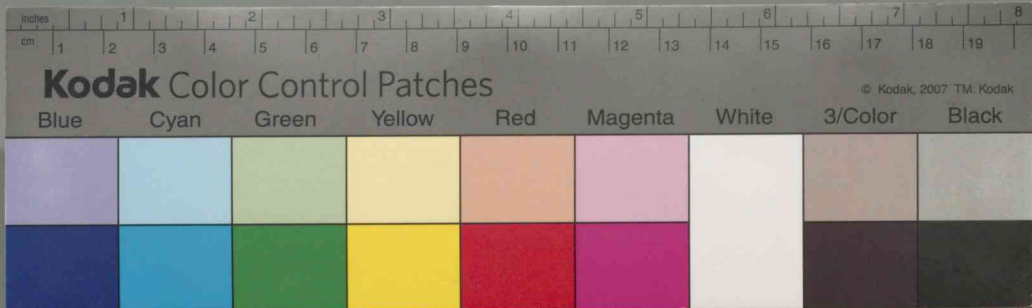
一、用材 五、〇五九石 價額 一五、一七七円  
二、木炭 一、〇六一七〇貫 價額 一八、〇三八円  
三、大麻 一、八九八貫 價額 四九、一五四円  
四、苧 一、八五七貫 價額 三六、九二四円

無用品ハ勿論生活必需品ノ大分ヲ移入ス 昭和五年度

八、商業  
本村ニ於ケル昭和五年度ニ於テハ商戸數ハ之ヲ本業トスルモノ一八戸  
副業トスルモノ一七戸計三三戸ナリ  
其ノ多クハ雜貨、材木、酒等ヲ商フ 移入ノ大部ハ繭、木材、大麻、木炭ニシテ  
無用品ハ勿論生活必需品ノ大分ヲ移入ス 昭和五年度

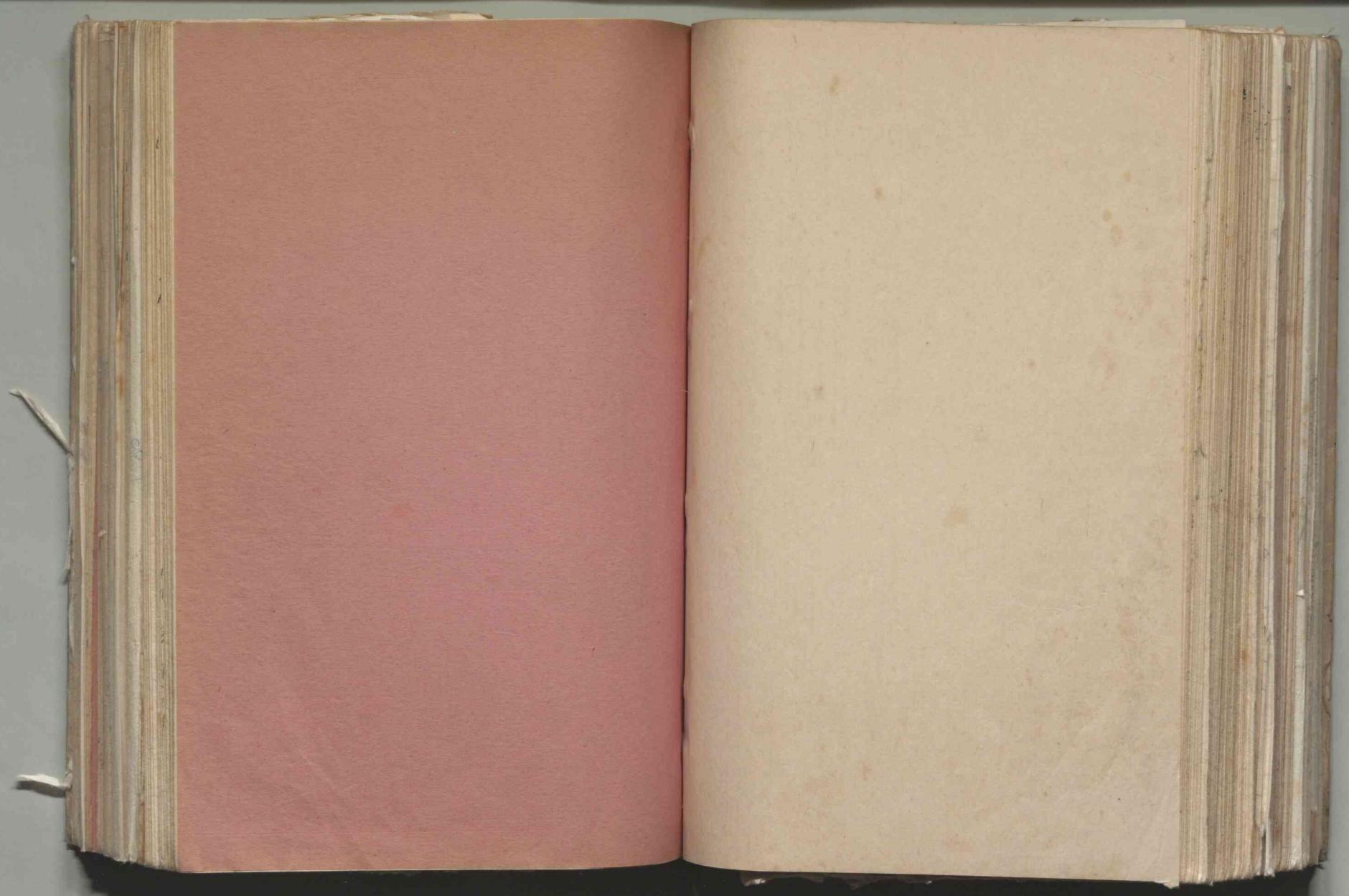
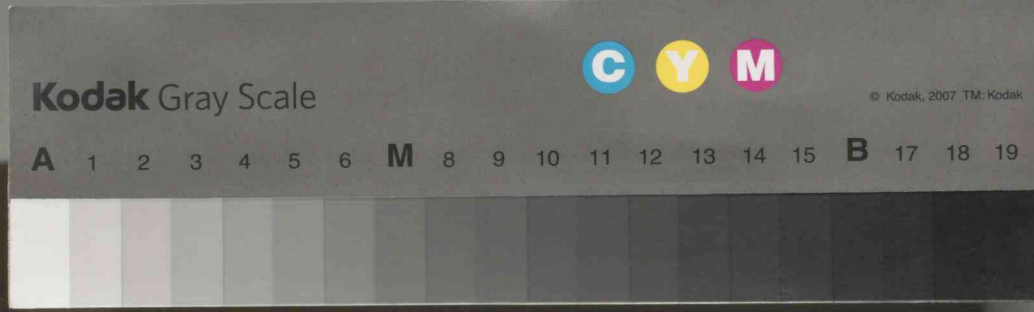
七、工業  
現在ノ所本村ニ於ケル工業ハ微々タリ昭和五年度ニ於ケル工業ニ從事  
然シテ其ノ生産額ヲ示サバ次ノ如シ





テノ真綿が製セラレルモ多クハ自家用土産品トスルニ止リ之が販賣ラ  
ラ試ミラル、量極メテ少キモ將来ニ於テハ之が販路方面ニ進出スルナ

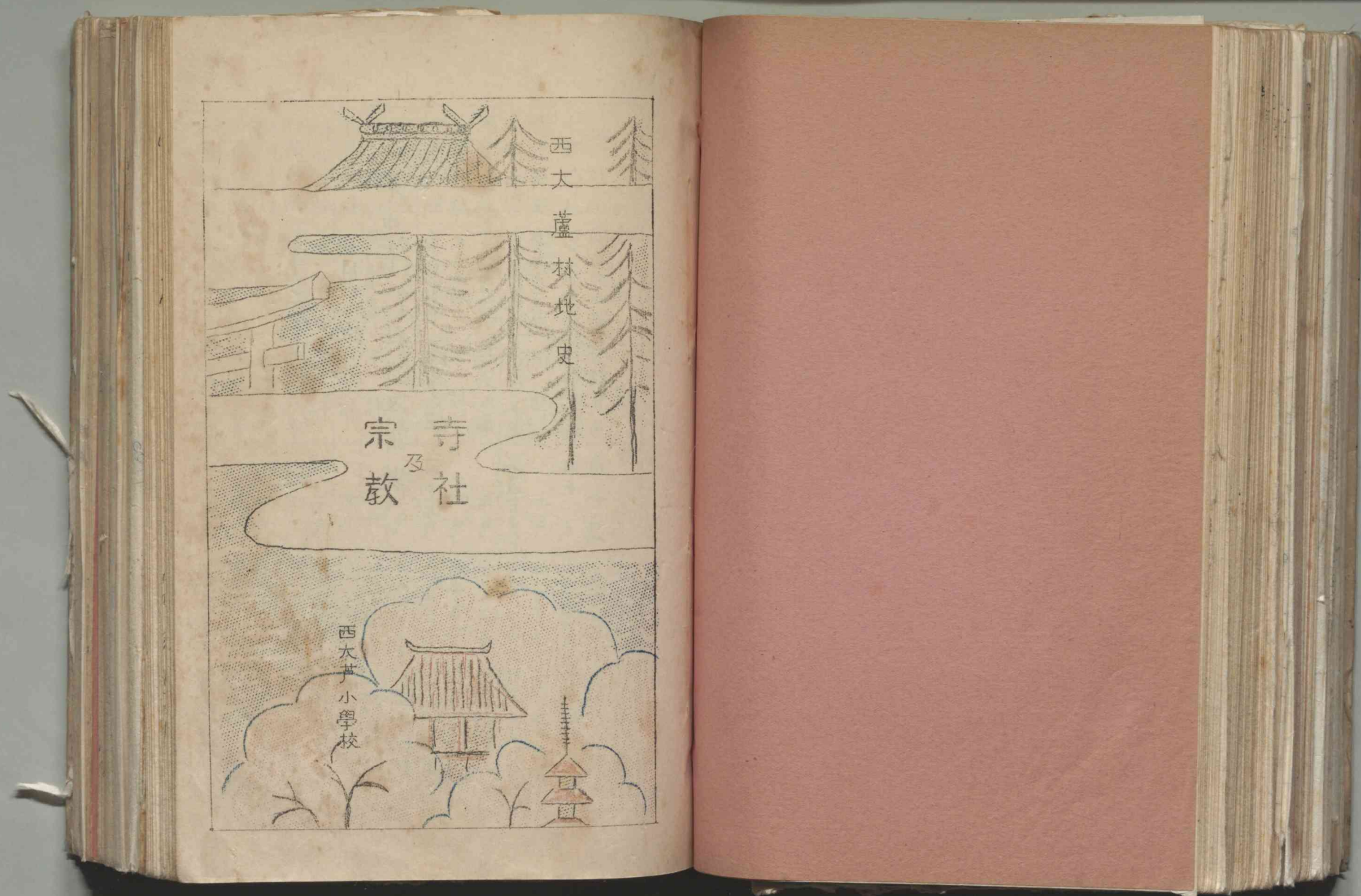
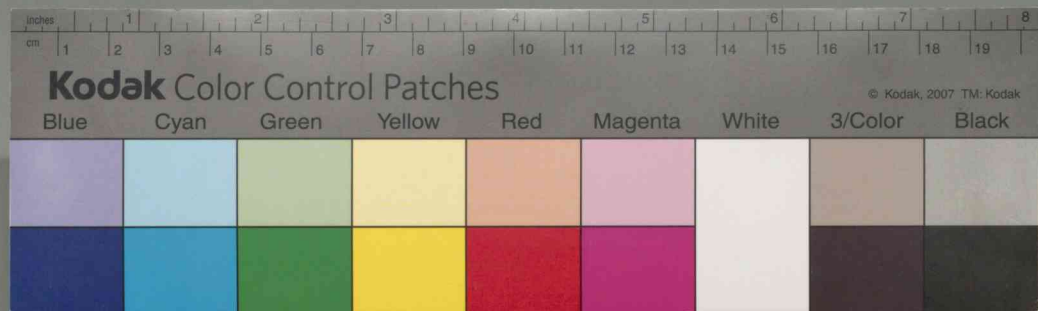




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

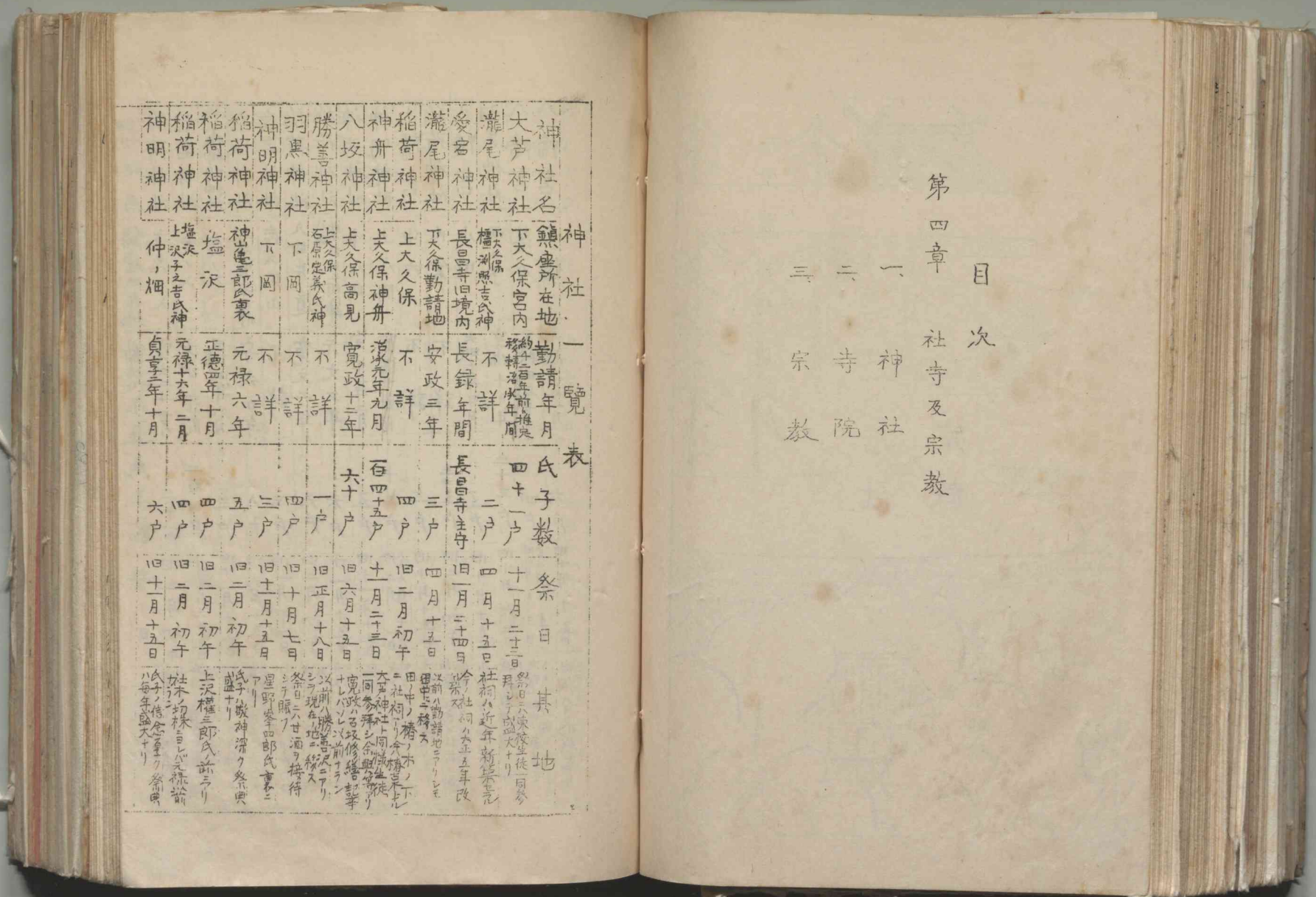
13





492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料





神社名	鎮座所在地	一覽表	氏子数	祭日	其地
神名神社	下大久保宮内	勤請年月 約十三年前推定	四十一戸	十一月二十日	祭日六夜燈生後同祭 月三夜盛火ナリ
大芦神社	下大久保宮内	不詳	二戸	四月十五日	社祠八近年新築祭元 冷社祠八五五年改
瀧尾神社	長昌寺境内	長録年間	長昌寺 三戸	四月十五日	又前八勤請地アリ 田中ノ橋ナ
愛宕神社	丁久保勤請地	安政三年	四戸	旧二月初午	ニ社祠ナリ今大橋上 大五社祠ナリ今大橋上
瀧尾神社	上久保	不詳	百四十五戸	十月二十三日	同参拜シ今大橋上 大五社祠ナリ今大橋上
神舟神社	上久保保舟	寛政元年九月	六十戸	旧六月十五日	寛政元年修繕 十レハノレ修繕ナリ
八坂神社	上久保高見	寛政十二年	一戸	旧正月十八日	以別八勝地ニアリ シテ現在地ニ移入リ
勝善神社	上久保	不詳	四戸	旧十月十五日	祭日六夜酒ヲ持得 皇野參四郎氏書ニ
羽黒神社	下岡	不詳	三戸	旧十月十五日	皇野參四郎氏書ニ アリ
神明神社	下岡	不詳	五戸	旧二月初午	成子敬神清ク祭典 盛ナリ
稻荷神社	神龜郎氏裏	元禄六年	四戸	旧二月初午	上元權三郎氏書ニ ナリ
稻荷神社	塩沢	元禄十六年十月	四戸	旧二月初午	社本ノ切株ニシテ元禄前 八毎々信念至リ祭典
稻荷神社	塩沢	貞享三年十月	六戸	旧十月十五日	

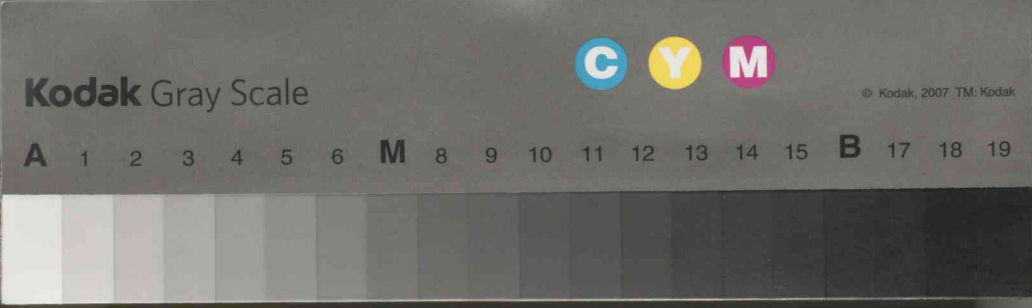
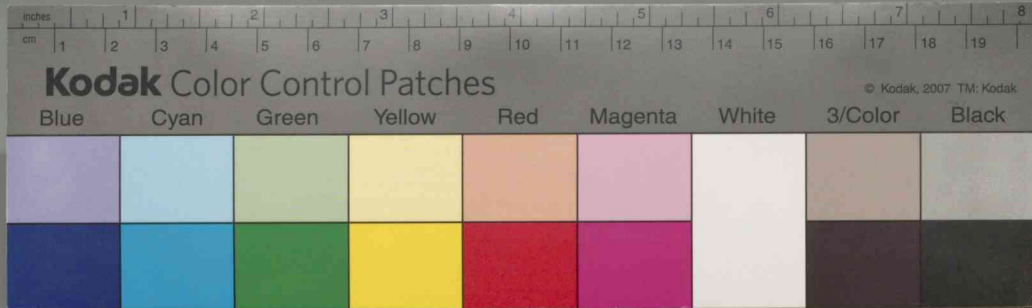
第四章 目次

一 神社及宗教

二 寺院

三 宗教

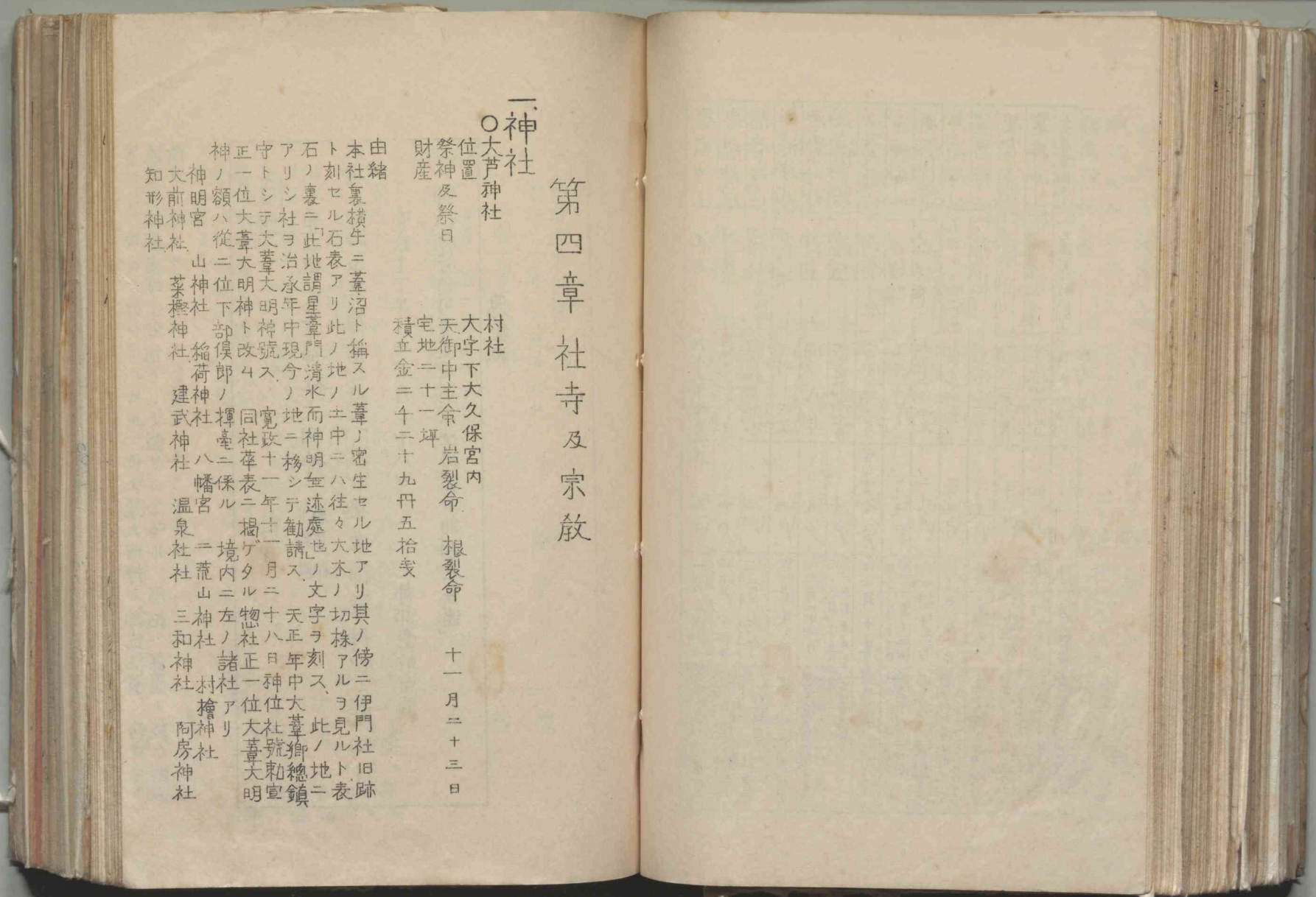
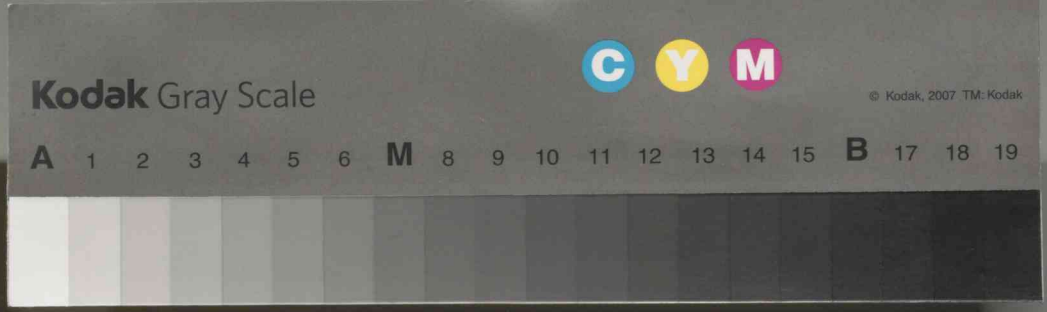
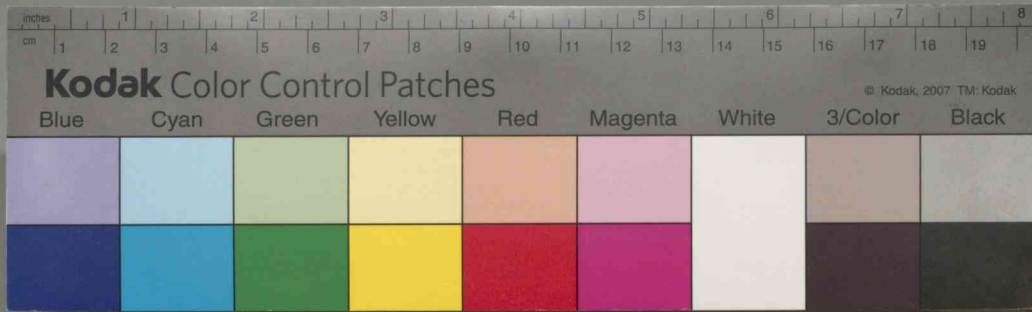




神社名	鎮座所在地	勧請年月	氏子数	祭日	其地
星宮神社	馬込	大永五年九月	三戸	一月二十六日	昔本太郎成神ニシテ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
岩裂神社	白井平	自永三年十月	六戸	旧十月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
稻荷神社	白井平	寶曆九年春	二戸	旧二月初午	大神ノ社ニシテ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
山祇神社	落平	元禄十六年	三戸	旧一月七日	向島小屋三向道ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
蚕影神社	落平	明治八年	五戸	旧三月二十四日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
八幡宮	落平	寛文元年正月	五戸	旧三月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
金山大権現	河内小屋	宝永四年正月	昔十四戸今三戸	旧十月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
岩裂神社	古越路	正徳四年	二十五戸	旧二月十三日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
蚕影神社	古越路	大正四年四月	二十戸	旧四月十三日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
日向神社	下向(川)	貞享四年	二十三戸	旧二月九日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
星宮神社	瀧ノ花	享保十五年	十五戸	旧二月八日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
星宮大明神	原山	宝永三年正月	十戸	確定日祭ナリ	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
霊符神社	下手	享保四年八月	四戸	毎月十三日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
古峰神社	石炭義能(石)	不詳	不詳	十一月四日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
神宮神社	古鹿ノ入	寛文二年	二十戸	旧二月初午	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
稻荷神社	古鹿ノ入	文永年間	二十戸	旧二月二十三日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
竹森神社	鹿ノ入	天明四年六月	三戸	旧十一月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
八坂神社	石原宣安氏神	安永四年	八戸	旧六月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
愛宕神社	鹿ノ入	不詳	三戸	旧一月二十四日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
稻荷神社	八幡片道	寛文二年	六戸	旧二月初午	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
稻荷神社	八幡片道	元文三年	六戸	旧十一月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
神明神社	中八岡	宝永三年二月	五戸	旧十一月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
神明神社	上八岡	享保十年月	十七戸	旧十一月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
八幡宮	中内	不詳	三戸	旧十月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
八幡宮	内倉	不詳	三戸	旧十月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
八幡宮	小川	天明六年四月	五戸	旧十月初午	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
八幡宮	雨ノ手	享保十九年	二十三戸	旧十月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
八幡宮	落合	元禄四年月	四戸	旧十月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ
八幡宮	小檜	元禄十年月	六戸	旧十月十五日	大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ 大永六年前ノ勧請ナリ







第四章 社寺及宗敎

一、神  
○大芦神社

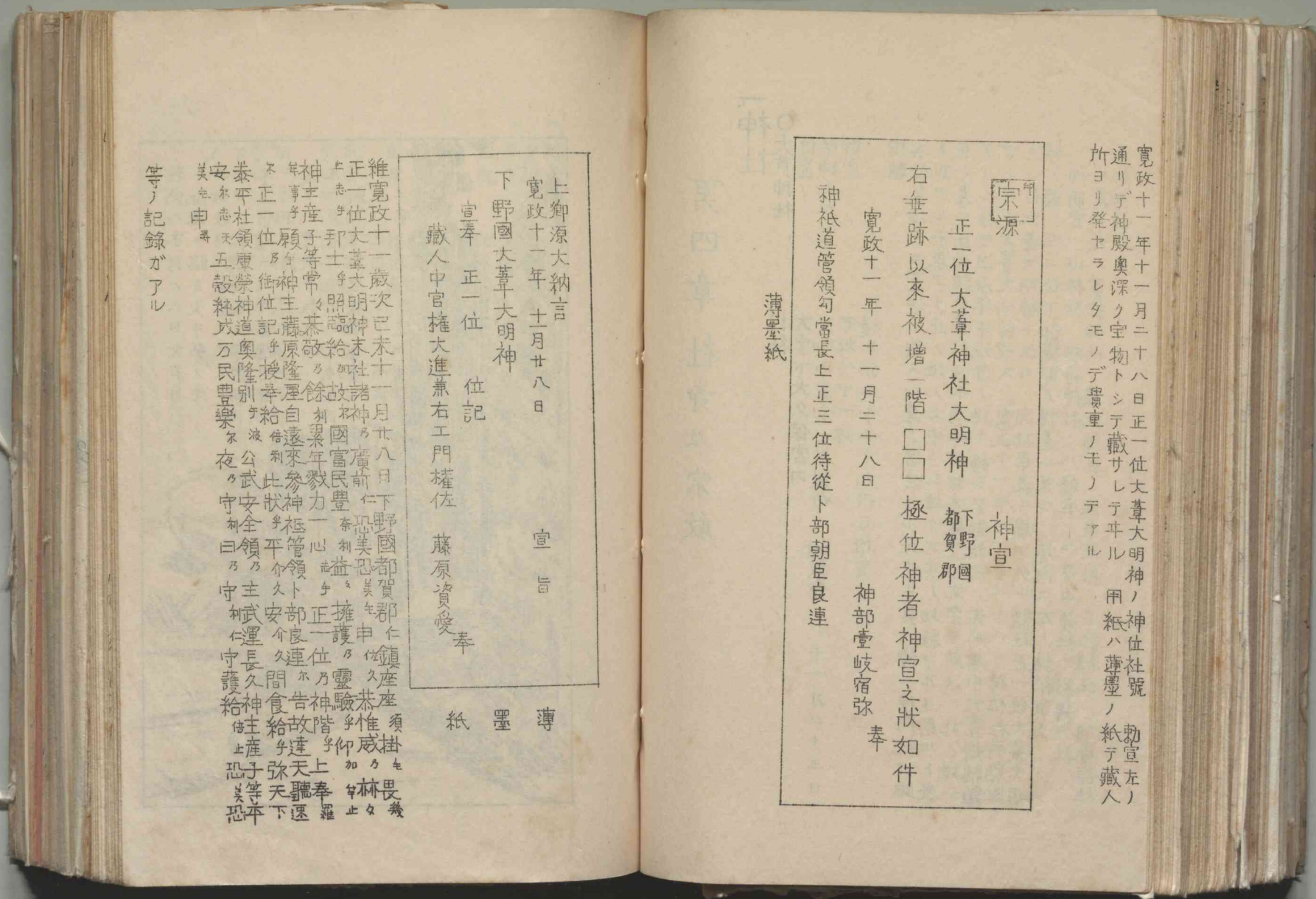
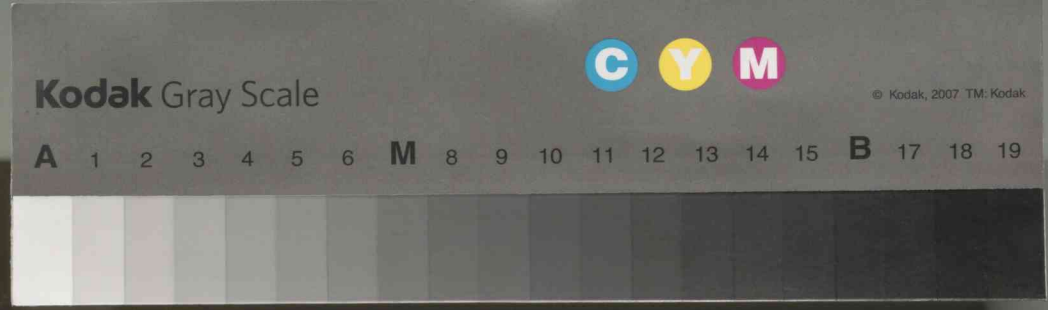
祭神及祭日  
位置  
祭神及祭日

村社  
大字下大久保宮内  
天御中主命 岩裂命  
宅地二十一坪  
積立金二千二十九円五拾弍

十一月二十三日

由緒  
本社裏横字ニ蓋沼ト稱スル葦ノ密生セル地アリ其ノ傍ニ伊門社旧跡ト刻セル石表アリ此ノ地謂星章門清水ノ神明無迹處也ノ文字ヲ刻スルヨ見ルト表石ノ裏ニ此地謂星章門清水ノ神明無迹處也ノ文字ヲ刻スルヨ見ルト表アリシ社ヨ治承年中現今ノ地ニ移シテ勸請スル天正年中大葦郷總鎮守トシテ大葦大明神ト改メス同社葦表ニ掲ゲタル物社正一位大葦大明神ノ額ハ從二位下部俱郎ノ揮毫ニ係ル境内ニ左ノ諸社アリ  
神ノ額ハ從二位下部俱郎ノ揮毫ニ係ル境内ニ左ノ諸社アリ  
大前神社  
山神社  
菜園神社  
縮荷神社  
建武神社  
八幡宮  
温泉社  
三和社  
阿房神社  
知形神社  
山神社  
菜園神社  
縮荷神社  
建武神社  
八幡宮  
温泉社  
三和社  
阿房神社





寛政十一年十一月二十八日正一位大葦大明神ノ神位社號  
通リテ神殿奥深ク宝物トシテ藏サレテ申ル 用紙ハ薄墨ノ紙テ藏人  
所ヨリ登セラレタモノデ貴重ノモノデアル

宗源

正一位大葦神社大明神 下野國 都賀郡

右垂跡以來被増一階□□極位神者神宣之狀如件

寛政十一年十一月二十八日 神部壹岐宿弥 奉  
神祇道管領勾當長上正三位待從卜部朝臣良連

薄墨紙

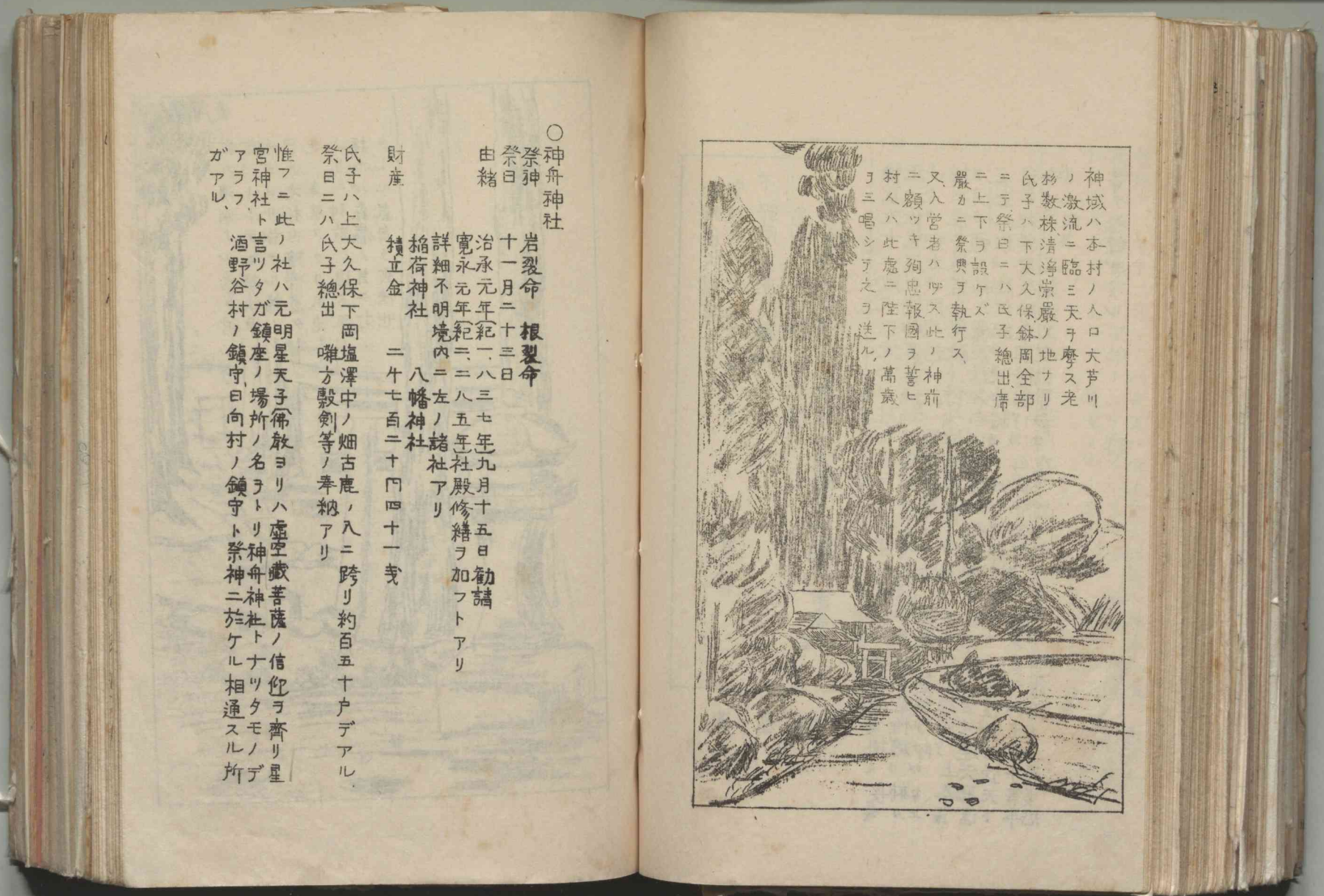
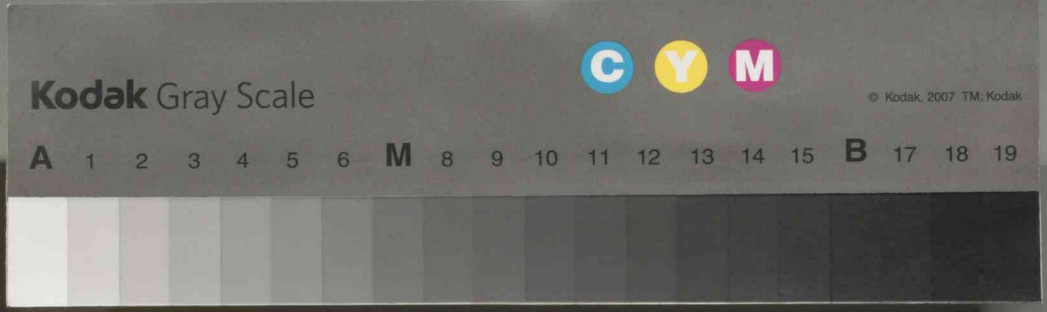
上野源大納言  
寛政十一年十月廿八日  
下野國大葦大明神  
宣奉 正一位 位記

藏人中官権大進兼右工門権佐 藤原資愛 奉

紙 墨 薄

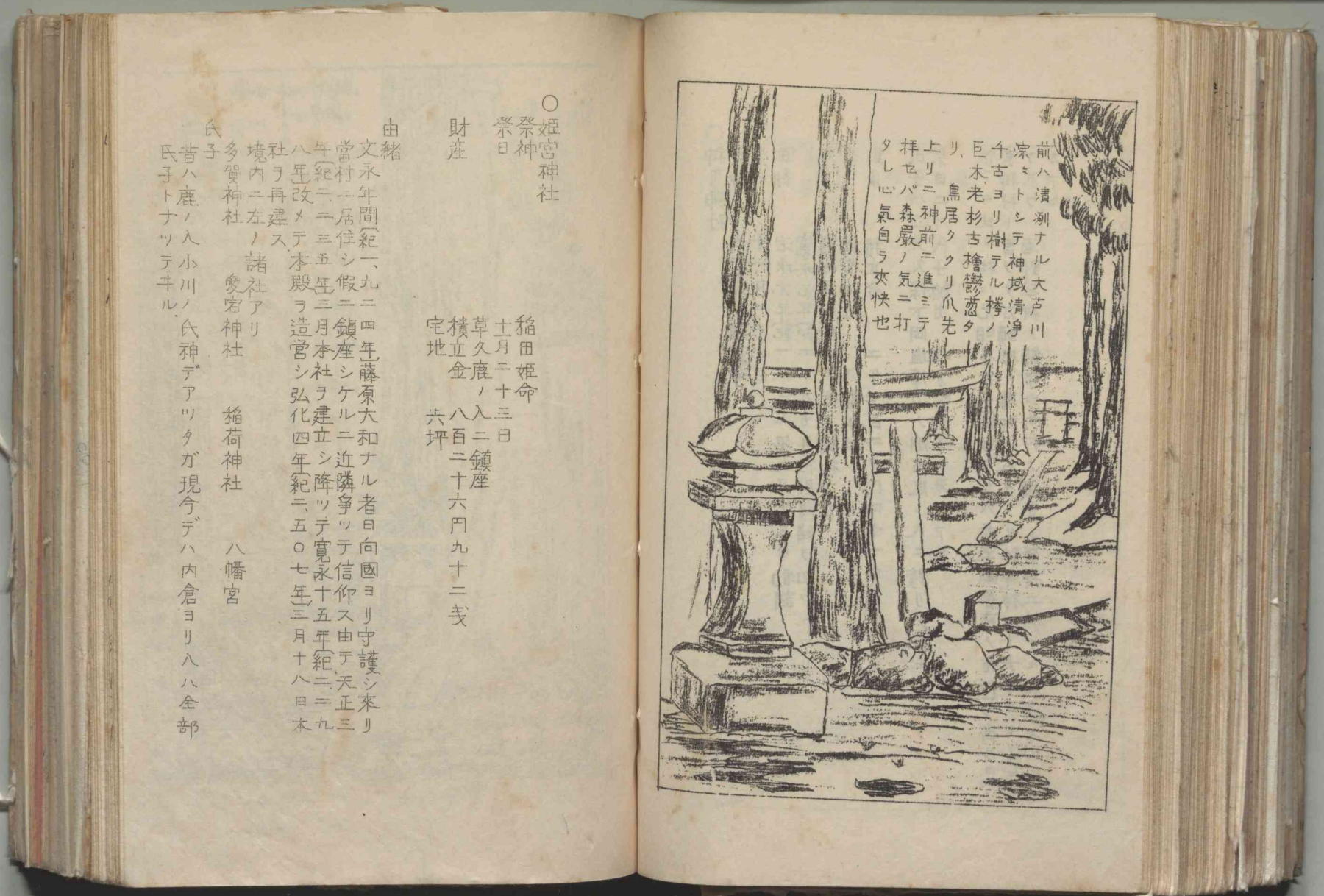
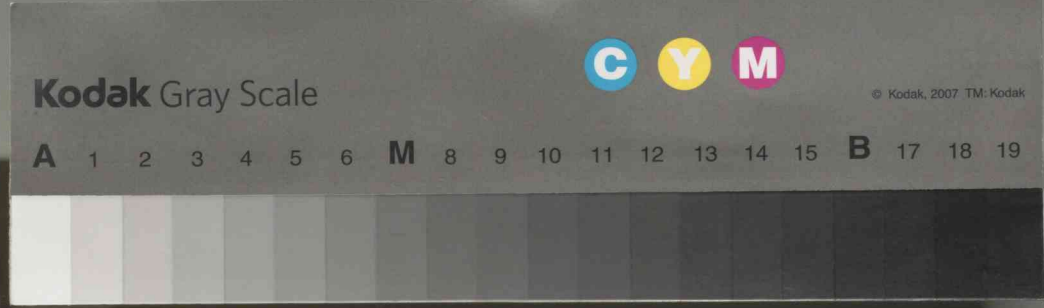
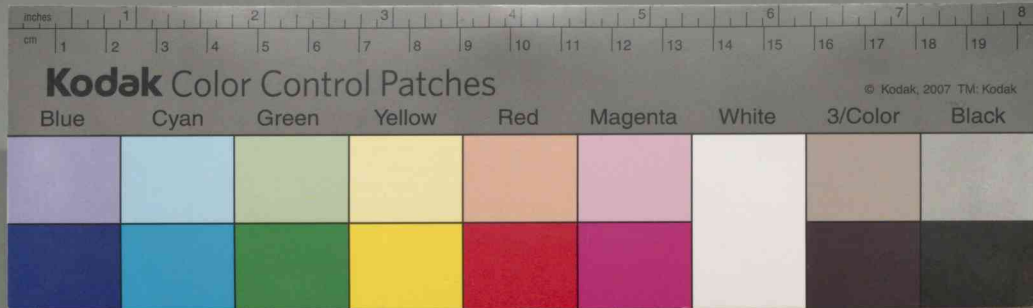
維寛政十一年歲次己未十一月廿八日下野國都賀郡仁鎮座  
正一位大葦大明神末社諸神乃廣前仁恐美申位久座  
神主産子等常々恭敬ヲ餘刻累年戮力一心益々擁護乃靈  
不事子願分神主藤原隆屋自遠來參神極管領下正一位  
安平社領康榮神道與隆別守武安領乃主武運長久神給  
美志申五設純成万民豊樂不夜守初日乃守知仁守護給  
等ノ記録ガアル





○神舟神社  
 祭日 祭神 岩裂命 根裂命  
 由緒 十一月二十三日  
 治承元年(一一八三年)九月十五日勸請  
 寛永元年(一六二四年)殿修繕ヲ加フトアリ  
 詳細不明境内ニ左ノ諸社アリ  
 稲荷神社 八幡神社  
 積立金 二千七百二十四十一匁  
 財産  
 氏子ハ上大久保下岡塩澤中ノ畑古鹿ノ入ニ跨リ約百五十戸デア  
 祭日ニハ氏子總出 唯方穀劍等ノ奉納アリ  
 惟フニ此ノ社ハ元明星天子御放ヨリハ虚空藏菩薩ノ信仰ヲ齊リ星  
 宮神社ト言ツタガ鎮座ノ場所ノ名ヲトリ神舟神社トナツタモノデ  
 ガアラフ 酒野谷村ノ鎮守日向村ノ鎮守ト祭神ニ於ケル相通スル所





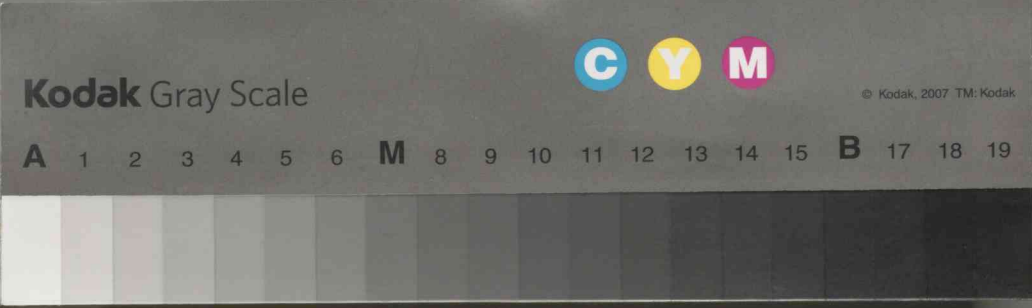
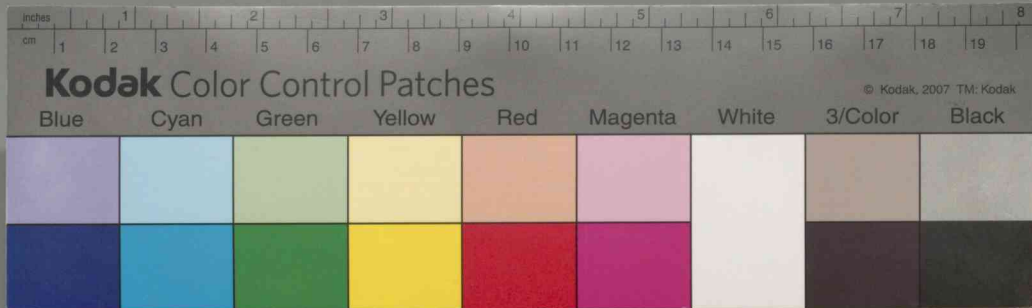
○姫宮神社  
祭日  
祭神  
由緒  
文永年間一、九二四年藤原大和ナル者日向國ヨリ守護シ來リ  
當村ニ居住シ假ニ鎮座シケルニ近隣争ツテ信仰ス由テ天正三  
年紀ニ三五年三月本座ヲ建立シ降ツテ寛永十五年紀ニ九  
八年改メテ本殿ヲ造宮シ弘化四年紀ニ五〇七年三月十八日本  
社ヲ再建ス  
境内ニ左ノ諸社アリ  
多賀神社 俊宕神社 稲荷神社 八幡宮  
氏子  
昔八鹿ノ入小川ノ氏神デアツタガ現今テハ内倉ヨリ八八全部  
氏子トナツテキル

稲田姫命  
十月二十三日  
草久鹿ノ入ニ鎮座  
積立金 八百二十六円九十二銭  
宅地 六坪



前ハ清洲ナル大芦川  
涼々トシテ神域清浄  
千古ヨリ樹テル塔ノ  
巨木老杉古檜鬱葱タ  
上リ鳥居クツリ瓜先  
上リニ神前ニ進ミテ  
拝セリ森嚴ノ氣ニ打  
タシ心自ラ快也

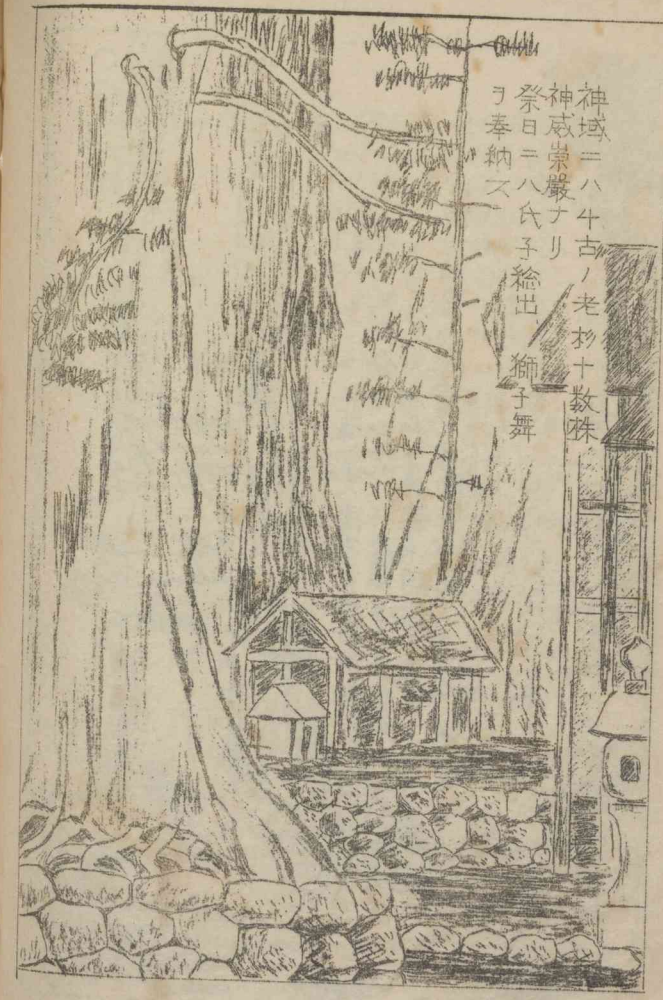


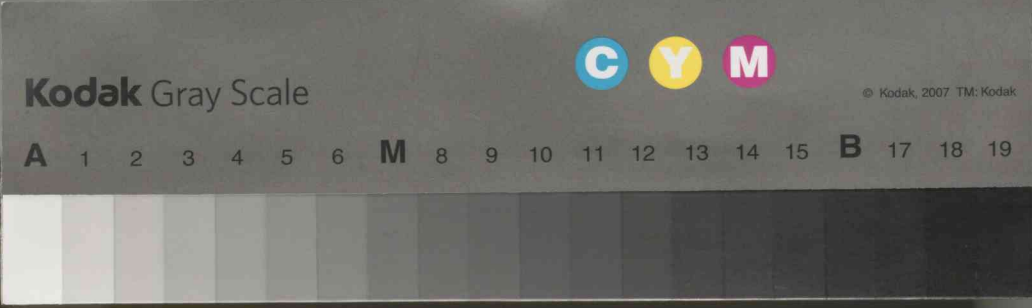
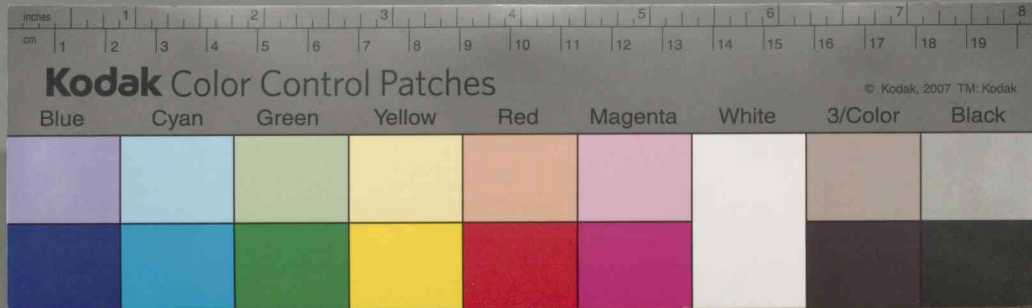


○古峰神社  
 祭日 日本武尊  
 十一月四日  
 大字草久古峰原鎮座

古峰神社ノ傳説(最モ代表的ノモノ)  
 古峰原ハ昔日本武尊御東征ニ際シ音専山脈ヨリ上野信濃ヘノ路ヲガ  
 ラ先ヅ留メ給ヒシ靈地ナリ其ノ後彼ノ行者小角出羽羽黒山ヘノ路  
 上先ヅモ、國黒峰自峰ヲ尋ネ峰々ヲ渉ル中余リノ空腹ニ立テ止リ谷  
 間ヲ見ルニ人アリ食ヲ求ムレバ土芋ト麥飯ヲ供フ行者之レニテ腹ヲ  
 満シサテ黒峰自峰ノ道ヲ問ヒバ里人案内シテ掛合ノ宿ト稱スル所ニ  
 テ指サシ黒峰自峰ノ道ヲ示シテ掛合ノ宿ト稱スル所ニテ腹ヲ  
 鬼後鬼ノ糲ヲ給フ是レ前鬼糲人後鬼主ト言ヒ石原家ノ祖アリ其ノ  
 後源義經主従十二人自米五升借用ス此ノ時辨慶ノモノニタル証文  
 ノ路石原家ニ立寄り自米五升借用ス

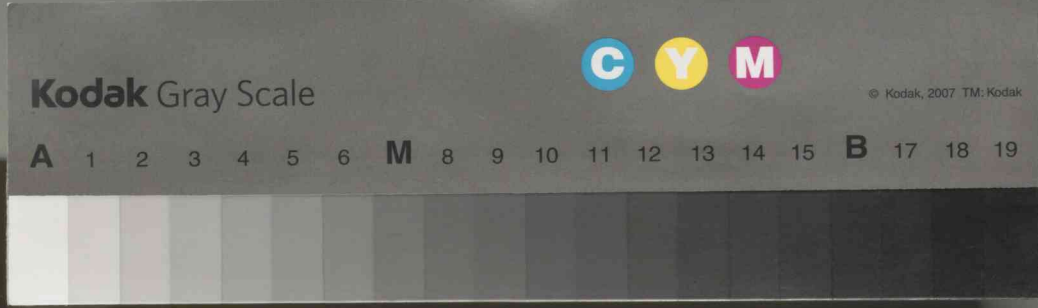
古峰神社ノ傳説(最モ代表的ノモノ)  
 古峰原ハ昔日本武尊御東征ニ際シ音専山脈ヨリ上野信濃ヘノ路ヲガ  
 ラ先ヅ留メ給ヒシ靈地ナリ其ノ後彼ノ行者小角出羽羽黒山ヘノ路  
 上先ヅモ、國黒峰自峰ヲ尋ネ峰々ヲ渉ル中余リノ空腹ニ立テ止リ谷  
 間ヲ見ルニ人アリ食ヲ求ムレバ土芋ト麥飯ヲ供フ行者之レニテ腹ヲ  
 満シサテ黒峰自峰ノ道ヲ問ヒバ里人案内シテ掛合ノ宿ト稱スル所ニ  
 テ指サシ黒峰自峰ノ道ヲ示シテ掛合ノ宿ト稱スル所ニテ腹ヲ  
 鬼後鬼ノ糲ヲ給フ是レ前鬼糲人後鬼主ト言ヒ石原家ノ祖アリ其ノ  
 後源義經主従十二人自米五升借用ス此ノ時辨慶ノモノニタル証文  
 ノ路石原家ニ立寄り自米五升借用ス





八合家ノ宝物アリ  
 續イテ日光本山ヨリ天下泰平祈願所トシテ此ノ峰ヲトシテ石原家ヲ宿所  
 ト定ム皆背後ノ山ヲ權現堂ト稱ス  
 因ニ金剛峰權トハ之ヨリ出タルモノカ石原家所藏ノモノニ紐佛金剛  
 童子像カアル徳川將軍家ノ奉納ト思ハレル物ノ本ニ  
 金剛童子ハ佛教ニテ悪魔ヲ摧伏スル軍神童形ノ忿怒尊ナリ本地ハ  
 釋迦如來トアル  
 權現トハ佛ノ衆生ヲ濟度セシカ爲ニ化身シテ假ニ此ノ世ニ現レタモ  
 ノヨ言ニ實ニハ其ノ事ナク物ニ志ジテ權ニ現スヲ言フ最勝經ニ  
 トアル  
 世尊金剛體權現於化身  
 大寶福太郎氏祖母大寶意根石原家女中奉公中ノ奥詰  
 古峰神社官主東石原西石原兩家ハ代々隼人主水ト稱シ日光本坊ヨ  
 リ多敷ノ僧天下泰平人峰ノ時到着ノ時ハ麥飯エテ食セシム之レ  
 往古役ノ行者ニ差上ゲタル吉例ニヨルナリト此ノ僧ハ古峰原ニ  
 一泊翌朝前ノ流ニテ百柄ノ水垢離ヲトリ横根深山巴ノ宿ニ到リ教  
 日祈願執行其ノ間毎日兩家主人連立ケテ登山安否ヲ訪ヘ日光本坊  
 へ報告シ決シテ御宿内出來事ヲ家内ノ者ニモ詰ラズト冬峰ニハ龍  
 ノ宿掛合ノ宿ニノ宿屋ノ宿ノ泊リヲ重木屋ノ宿ヨリ下山神橋ヲ  
 渡リ日光本坊へ歸ル積雪通行困難ノタメ毎年村民ニ役ヲ當テ、雪  
 路ヲ十オシム春峰ハ三月一日日光發足途中男女身ノ幸福ヲ祈ル  
 タメ花ヲ捧ケルガ故花供ノ坊様ト言フ  
 此ノ神ハ通稱日光山古峯原金剛山ト言ヒ関東奥羽諸國ヨリ祈願參  
 拜ノモノ多シ云々  
 古峰神社ノ歴史ハ之ヲ研究スルニ據ルベキ記録等ナク非常ニ困難ヲ  
 感スル今勝道上人神陀洛山記ニ  
 天平空宇元年十一月四日夜夢此方有大山其上有大劍長三尺許寤而  
 異怪無極任夢遂出嶺窺向北方尋之二十有里墓以茅柴構澤邊宿三  
 日念誦勤行在天臺來教大劍峰及諸高居往之靈出住天童教向北踏深  
 雪登於高峯  
 向暮歸宿沢辺明攀高峯踏白雪深經十七日更有高山前渺々廣野十二  
 三町而山頂之側有岩岨廣丈餘入彼深洞如夢所見爲奇異想精進修業  
 于夏日尙常來化人備以美果食之其濃如天甘味而無飢住此禱歷三年  
 焉々々  
 トアル以茅柴構沢辺トハ變澤ト言地テ古峰神社附近テアラウ化人來  
 備以美果トハ古峰原原氏祖先デアルト相像スルコトが出来ル前渺々  
 廣野其野十二三町而山頂之側有岩岨廣丈餘トアルハ三味石ノ重テ  
 アル右ノ文テ勝道上人が古峰原ニ泊シ三味石ニ登山勲業精進シタ有

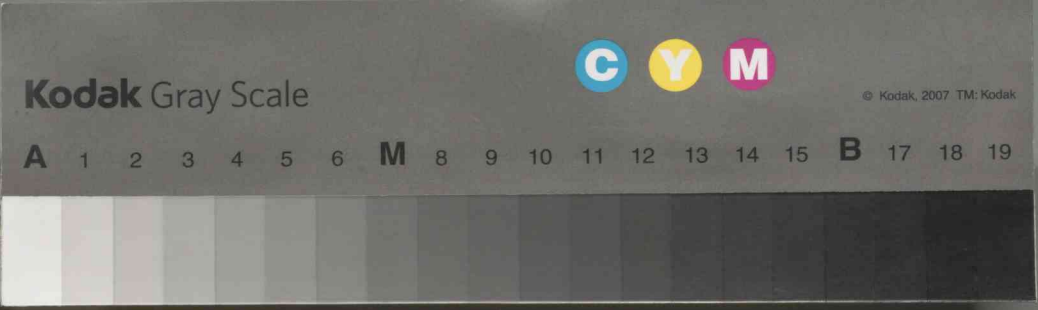
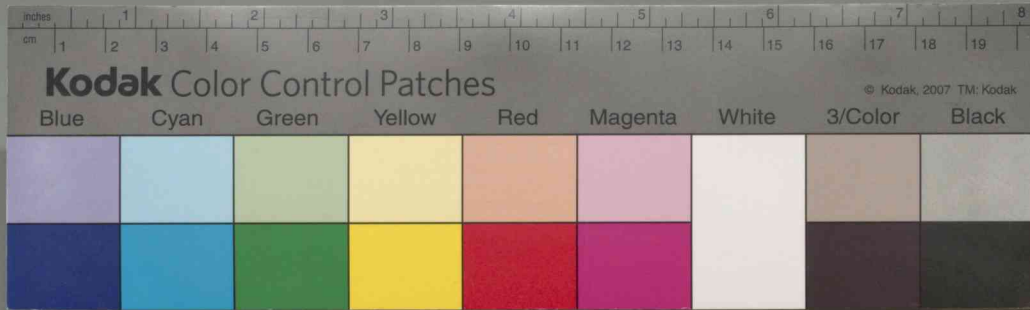




以上之ヲ冬峰ト云フ  
 三月十三日古峯原着一泊シテ深山巴ノ宿ニ登山今二十四日出発中  
 宮祠歌々濱ニ至リ四月二十一日日光山内ニ入ル  
 龍ノ宿ヨリ歌々濱ニ至ル間ノ宿所  
 掛合宿 一泊  
 此處ニハ永ク帯在  
 峠ノ宿 一泊  
 此處ニハ永ク帯在  
 以上ノ春峰トイフ  
 此處ニハ八日日光山内へ下ルマデ  
 一泊シテ春峰ノ坊ハ小來川村ヲ經テ八岡ニ至リ今ノ柴田丈三郎氏宅ニ  
 古峯神社ハ此ノ間神佛習合一十年神デモアリ佛デモアリツテ諸人ノ崇  
 敬ヲ受ケ靈驗アラタカデアツタノテアル然ルニ現今ノ如ク古峯神社  
 トナツタノハ明治維新ノ改革ニヨルモノデ其ノ經過ハ左記ノ様ナ次  
 第デアツタ  
 石原義般氏藏古文書寫  
 慶應四年日光御門主一品公現法親王御事上野於官軍脱走徳川藩  
 爲討忍多海殿大砲小砲登砲五月十五日弥戰争ニ相及砲聲如雷天地  
 爲動御上不得止御立退御座之場所モ無之ニ付無餘儀會津辺ヨリ仙  
 白仙岳院ニ御立退終ニ上野御殿炎上衆徒中大ニ燒失擾動難畫筆紙

日本武尊御東征ノ御事此ノ地ヲ通過遊ハレタカ或ハ其ノ威風ノ及ヒ  
 シ處カ香トシテ知ルコトハ出來ヌガ古峯原ノ登達ハ勝道上人以來靈  
 地トナツタコトガ其ノ原因デアリ亦結果デアルト思フ因ヨリ大日  
 光ノ一部トシテノ古峯原テアツテ彼ノ根連峯ハ日光滿願寺園家鎮  
 護ノ祈願修法ノ道場デアリ僧坊ノ座觀法ノ修業道場デアツタカ  
 ラ弘仁年中弘法大師日光へ來化アツテ滿願寺ヲ天下養平萬民豐樂ノ  
 勅願ノ道場ト定メラレタコトハ直ニ以テ古峯原ガ其ノ道場ニナツタ  
 コトニナルノテアル爾來星霜一十年或ハ後醍醐天皇ノ勅願アリ或  
 ハ源賴朝ノ祈願アリ徳川幕府日光ニ東照宮ヲ營ムヤ倣然政治的ニモ  
 京教的ニモ一般ノ光景ヲ放ツコトニナツタノデアラウ  
 今徳川時代ニ於ケル天下養平祈願並ニ僧坊ノ座觀法ノ大要誌セハ  
 左ノ如キモノデアツタ  
 人峰トシテ日光山内ヨリ僧一坊十二月二十六日古峯原着一泊深山  
 巴ノ宿ニ登山翌年正月十四日合所出發日光神橋ノ上星ノ宿ニ入り  
 三月二日日光山内ニ入ル巴ノ宿ヨリ星ノ宿ニ至ル宿所ハ  
 掛合ノ宿一泊  
 三ノ宿一泊  
 化程ノ宿 此所ニハ二月十五日マデ





不安心之儀ニ付当宿角片付先藏坊教光坊貞連登山荒増密之品焼捨  
 其外土中二埋ム其後疎日光山内庵寺同様ニ相成ニ付當宿交舞之為  
 龍觀巖城秀海靜城龍門行庵住貞誠石原隼人全主水併而六人登山殘  
 片道具等不殘土中埋或ハ燒捨唯宿而已然レ共禪加護之冥助宜  
 哉入峰修行人撰冬修行教觀興全龍門行庵住貞誠併而三人此時山  
 法無因日旧幣一洗實ニ難行累徳之回峰後人仰而信焉  
 夫昔春ニ移リ修行ニ追苦行依之昭曹院口海法院ハ公達修行是亦旧  
 法之信者豈當山之古法午有餘年相續清一洗改革ト雖共廢潰滅法ハ  
 似於雞卵如押大山乎  
 德川幕府倒壊明治ノ新政ニ至ル政局ヲ推初ハ右ノ如ク七峰七宿ヲ  
 有スル天下泰平祈禱所靜座觀法ノ道場デアツタト古峯原一圓ニ殆ン  
 ト決定的ノ變革ヲ來シタガ其レハ政治的ニ來ワタトコロノ變革デア  
 ヲテ太古峯原ニ自然的ニ具リ給フ神靈佛徳鑿驗ト之ニ對スル諸人ノ  
 信仰トハ舊態ノ變モ及ハズ却テ其ノ靈徳ノ光ト渴仰ノ信者ハ旧ニ  
 倍スル有様デアリ  
 右ノ時於テ太古峯原ノ中心カ如何ナル形式ニ落々着イテ行ツタカ  
 神佛判然寺院神主混肴之變ニ就而者當山入峰之家顯言相認×知縣事役所  
 =願出右之先初者明治元年辰年九月旬餘日淨留守居功徳院ニ出願  
 之大意者

明治維新ニ當リ日光宮御座如何ニ日光及古峯原ニナル衝撃ト警愕  
 東照宮大權現會津城ニ御座之次第荒増記ノ中  
 前略 右日光山ニ度ニ戰争ノ地ニモ相及ルニ付夫峰中密持道具其外  
 明治二年 正先達 円泉坊円成  
 御免日光宮御座ニ伏見官ニ御願相成候事 見人幸ニ仰高察 然後御謹  
 相附不申御餘儀三月四日京出立ニ而同日ニ御機謙奉伺御所置ノ程モ追  
 記ニ置儀有之件共短才不弁不暇取筆 見人幸ニ仰高察 然後御謹  
 辰十一月十日當山出立江戸ニ而永井外記ト同道東遼道通行上京正  
 依之門東坊門成其節日光御殿御次詰ニ付右海上御機謙爲伺上京則  
 榮助召トシテ東海運御運行京都汚着伏見宮ニ付預ケ御謹可有旨朝  
 入海供ハ用格麻生將監御側格山本士膳二人外ニ日光町人小賀屋  
 成死ト諸人心得處十任ニ而御供來御座ニ申付海上引戸ニ奉相  
 右二門人数召連仙岳院マテ御迎奉向依而江戸ニ御入都御多居ニ相  
 上奥羽ニ御立退ノ齋ヲ以テ無餘儀御謝罪ト申事ニ相成其由藤堂仁  
 風説依テ御上ヲ脱走朝敵同様ナドト官軍申唱ニ終ニ會津藩城後  
 御上仙台御座在留其時會津國中戰ニ甚シ仙台ノ儀ニ討會ニ通レ  
 兄弟妻子離散道路往掛之男女驚駭四圍ニ幾倍スルカ思レ如レ依之  
 御上仙台御座在留其時會津國中戰ニ甚シ仙台ノ儀ニ討會ニ通レ





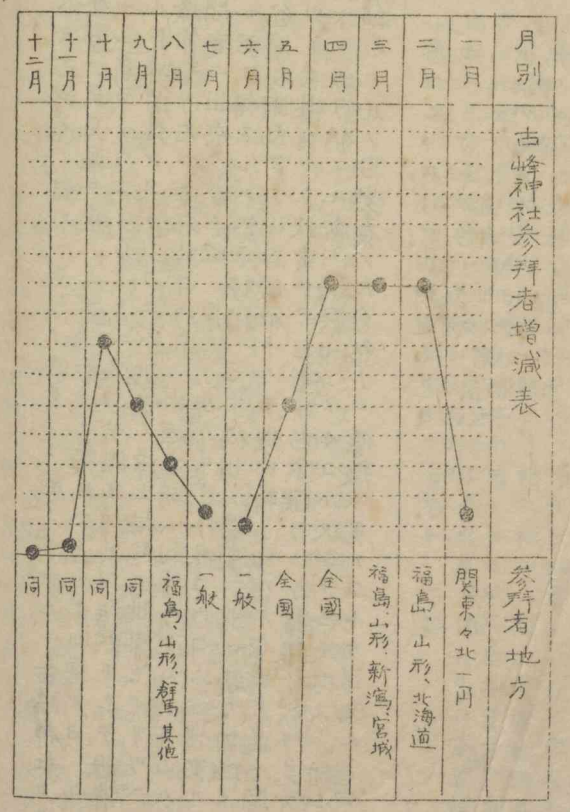
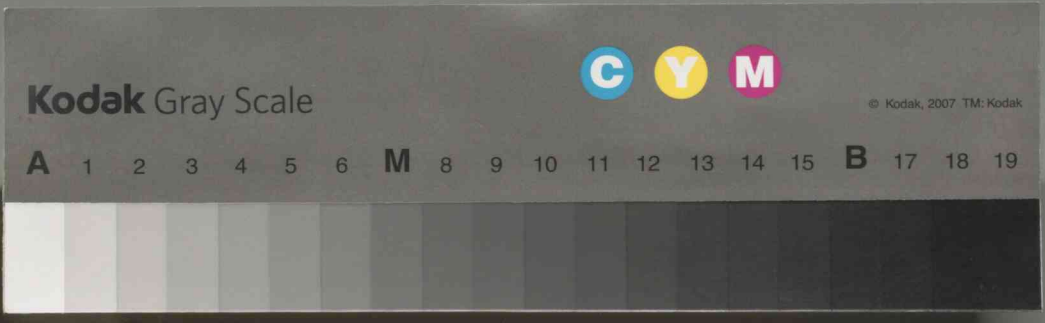


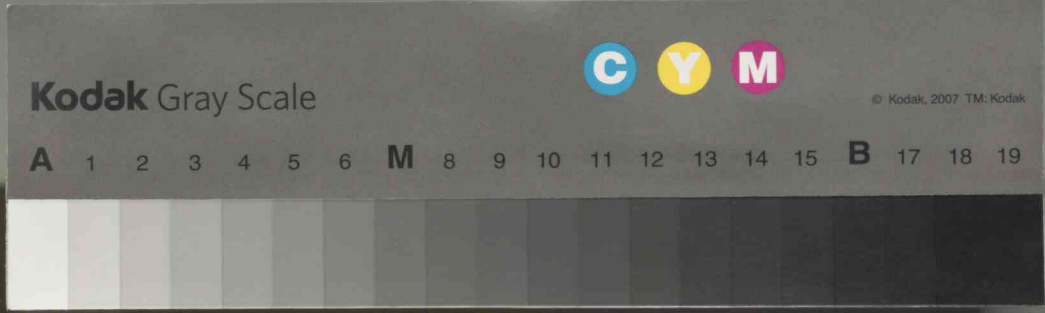
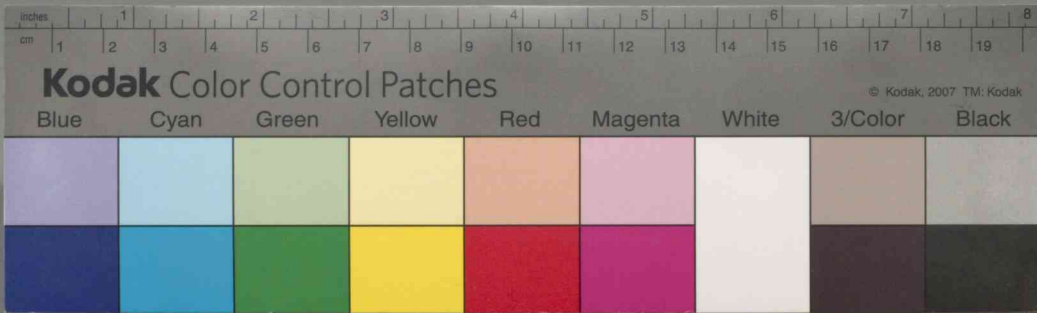
要ハ大古峰原ノ持ツ大自然ノ靈氣リノモノデア  
 へ登攀一里足尾ニ通スル古峰原ノ頂點ニ立ツテ望セヨ  
 カナル高原ノ木々ノ色ニシテ觀テ淨土ノ神祕ヲ見  
 エル巨峰ノ雄姿ヲ見テ古峰原ノ靈氣ヲ感スル  
 女峰赤嶺ヲ右ニ白根原ヲ左ニ觀テ淨土ノ神祕ヲ見  
 ノ間寶山ノ美巨峰ノ靈氣ヲ感スル  
 南ニ眼ヲ轉スレバ鏡雲樓ヲ見テ淨土ノ神祕ヲ見  
 大谷瀧良瀬大芦ノ溪谷錯雜トシテ八州ノ関東一  
 アツテ大氣爽マク快楽ニヤ巨木小杉未醒ヤシテ  
 天下ノ秋ヲ納スル勿レト歎セシメタコト醒ヤシテ  
 峰神社ハ此ノ古峰原ノ大自然ノ一像徴ト見ルコト  
 春はこりあげて古峰道者かな  
 あたゝかや土手に飯食小同者どち  
 うちの道者のかや土手に飯食小同者どち  
 古峰の深き木立よ霞しくく  
 古峰の深き木立よ霞しくく

致窓

先般拙宅へ判事申出ニ而委細被申付之趣モ有之ニ付此之度役所  
 へ出願仕候間右趣意御届申上ル者ニ而別記願書上ル直ニ全文之書  
 縣令へ差出願口年行事府庫有之ト雖大櫛記之者ニ而家儀者近  
 坊中之支配ヲ蒙ルト雖元日本武尊ニ而元ヨリ金剛童子者無  
 之同神ヲ以テ金剛童子ト稱ハ是迄給仕來修事ニ付以來日本武尊  
 ト被仰付被下口其外諸記略之雖大櫛記之者ニ而家儀者近  
 久シク金剛童子ヲ渴仰ノ本尊トシテ來夕古峰原ハ大要以上ノ様ナ  
 相ノ推務ニ伴ツテ以上ノ様ナ經過ニヨリ今日ノ古峰神社トナツタ  
 ノ地金跡説ニヨリ釋迦牟尼ガ久遠賢成ノ本地ヲ開闡シ垂跡ハ相  
 木地金跡説ニヨリ釋迦牟尼ガ久遠賢成ノ本地ヲ開闡シ垂跡ハ相  
 威徳顯揚ノ一ツ段タルノミ茲ニ清冽極リナキ大芦川ノ水ヲ上レハ  
 巖トシテ鋒工ノ御靈徳ヲ體シ一切ノマツラテ發スル靈氣ト荒魂  
 ニ在ス草薙ノ劍ノ御靈徳ヲ體シ一切ノマツラテ發スル靈氣ト荒魂  
 ヒル日本武尊ノ御威徳ト三面六臂弓箭ノ輪鈴ヲ執リ一切ノ可畏  
 又ラ挫伏スル武尊ノ御威徳ト三面六臂弓箭ノ輪鈴ヲ執リ一切ノ可畏  
 アル故ニ日本武尊ヲ齋キマツルモハ觀念ニモ統合融通ノ可畏  
 武尊トナルコトハ自然ニシテ又必然ト言ハネバナラヌ

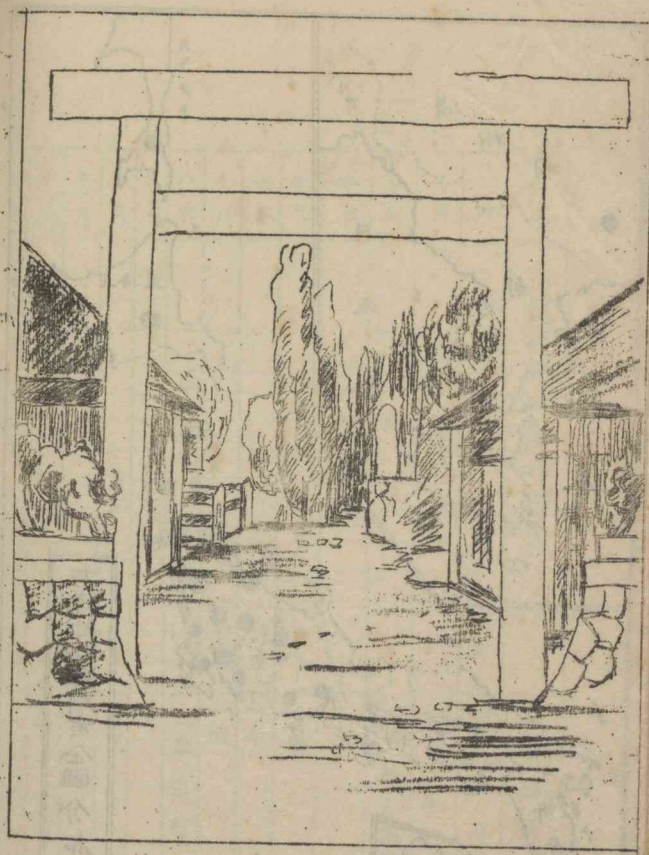






氏神調査表

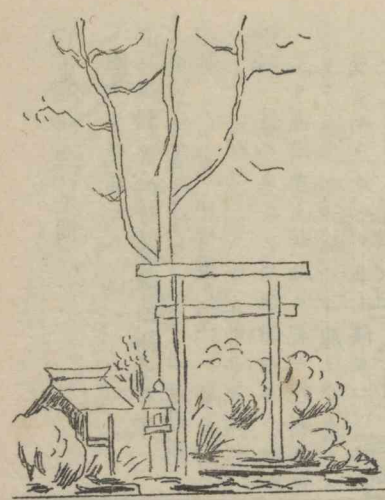
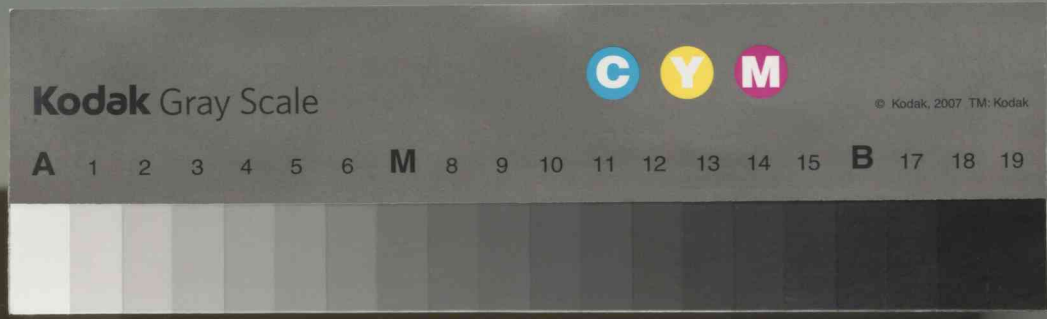
神名	宇賀	五郎	下向	石山	湯渡	山	東照	青石	八坂	勝善	八幡	羽黒	壺
宇賀神社	宇賀神社	宇賀神社	宇賀神社	宇賀神社	湯渡神社	山神社	東照大権現	青石権現	八坂神社	勝善神社	八幡宮	羽黒神社	壺神社
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二



古峯參道  
新鳥居







稻荷神社 上久保  
 傳記 勤請不詳境内ハ田ノ中ニテ椿ノ古  
 ホアリ小社祠ナリ  
 源氏ノ名馬摺墨ノ脚ヲトメシ  
 所トテ駒止稲荷トノ説アリ



勝善神社 上久保百原定義氏神  
 傳説 昔石原家へ何處ヨリカマツ  
 黒十馬來リケレバ之ヲ叮嚀ニ飼  
 養セシニ三日ニシテ何處ヘカ  
 去ル間モ十ク引田ニテ摺墨ノ名  
 馬発見セリ之石原家ニ来リシ名  
 馬ナリケレバゴレラ祭リト傳

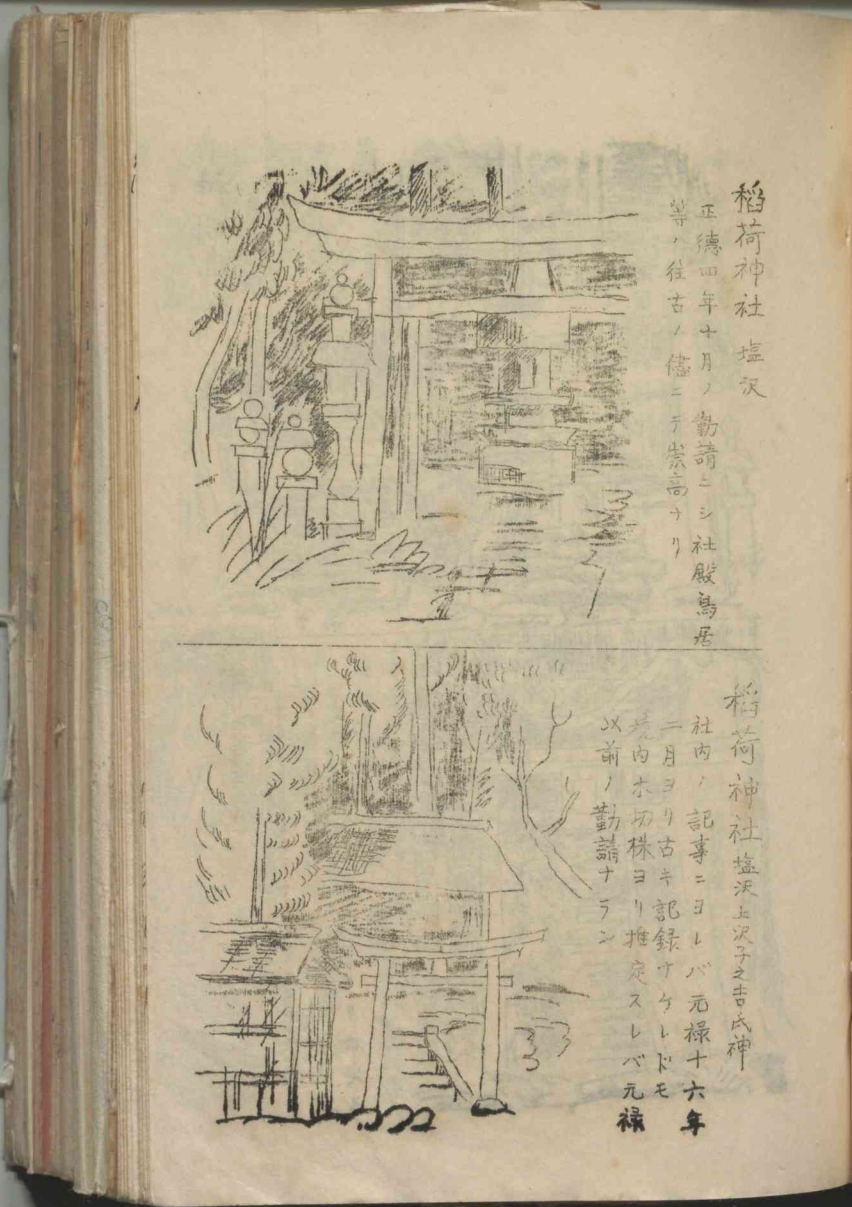
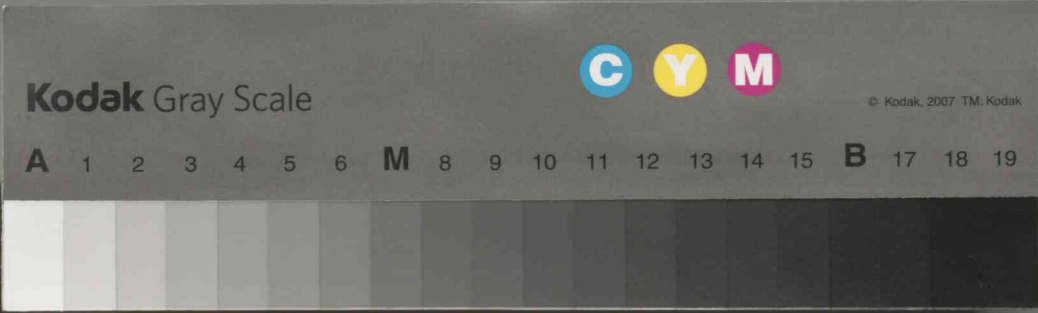


瀧尾神社 下久保田中  
 社内ノ記事  
 安政三年創立 佐藤隆宗 建之  
 大工 石原勇造  
 傳説 當神社ハ以前ハ勤請地ニア  
 リ字勤請地ハ日光瀧尾神社ヲ  
 勤請シタルヲ以テ勤請地ト名



八坂神社 上久保  
 社内ノ記事  
 奉造立牛頭天王廣前石坂村内安全  
 寛政十一年  
 コレ以前ノ勤請ナランモ不詳ナリ





稻荷神社 塩沢

正徳四年十月ノ勤請ニシ社殿鳥居等、往古ノ儘ニテ崇高ナリ

稻荷神社 塩沢上沢子之古氏神

社内ノ記事ニヨレバ元禄十六年二月ヨリ古キ記録ナケレドモ境内木切株ヨリ推定スレバ元禄以前ノ勤請ナラン



羽黒神社 下岡

社内ノ記事ニ正一位勤等神社祭主藤原朝臣照家天保七年十月五日焼失社守上沢勤輔肥後国早良石工大工上沢信好

傳説

昔ハ鳥居ノ正面南向キニ神社アリ或時農夫神社ノ前ヲ肥料ヲ負ヒテ通レリ神社ハ立腹シテ直ケニ東ニ向ウカヘタリト傳フ

稻荷神社 下岡

神ノ一家ノ氏神 勤請ハ社内ノ記事ニヨレバ元禄十六年トアリ最近社祠ヲ修繕ラシテ荘嚴ナリ

神明神社

下岡

